

*1 実際には磁鉄鉱を含む黒色で光沢をもつ不透明鉱物。

参考文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要, 自然科学編, 10, p.1-79.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
- 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究, 11, p.232-233.
- 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.

(2) 春日社古墳における植物珪酸体分析

1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オバール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定及び古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山 2000）。

2) 試料

分析試料は、古墳埴丘盛土直下の炭化物層から採取された14点、炭化物層下位から採取された1点、及び鉄礫の矢柄部分から採取された1点の計16点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

3) 分析法

-1- 植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスピース法（藤原, 1976）を用いて、次の手順で行った。

- ①試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- ②試料約1gに対し直径約40 μmのガラスピースを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）
- ③電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- ④超音波水中照射（300W・42K Hz・10分間）による分散
- ⑤沈底法による20 μm以下の微粒子除去
- ⑥封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- ⑦検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10~5 g）をかけて、単位面積で層厚1 cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山2000）。タケア科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

-2- 灰像分析

鉄錐の矢柄部分については、電気炉灰化法（550℃・6時間）によって灰化し、オイキットで封入してプレパラートを作製した。なお、灰化物の内部を調べるために、灰化物の一部を破壊して観察を行った。

4) 分析結果

-1- 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第4表及び第16図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）

〔イネ科-タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）、未分類等

〔イネ科-その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔シダ類〕

〔樹木〕

はめ絵パズル状（ブナ科ブナ属など）、その他

-2- 植物珪酸体の検出状況

①炭化物層

墳丘北東部（試料S-1、S-2、E-3）、墳丘北西部（試料6、21、27、41、52、53）、墳丘南東部（試料12、18、35、52、57）の14点について分析を行った。その結果、各試料ともネザサ節型が多量に検出され、メダケ節型も比較的多く検出された。また、キビ族型、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型も検出され、部分的にヨシ属、ススキ属型、マダケ属型、シダ類、及びブナ属などの樹木も認められた。なお、イネ、ムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）などのイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体は検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、ネザサ節型が優勢となっている。

②炭化物層下位

東西ベルト南側のNo.2について分析を行った。その結果、炭化物層と同様にネザサ節型が多量に検出され、キビ族型、ススキ属型、メダケ節型、ミヤコザサ節型、シダ類なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、ネザサ節型が優勢となっている。

③鉄錐の矢柄部分の土壤（灰像分析）

鉄錐の矢柄部分の土壤について灰像分析を行った。その結果、灰像組織や珪化細胞組織片は認められなかった。なお、ネザサ節型などの植物珪酸体が比較的多く検出されたが、これは試料に付着した土壤に由来するものと考えられる。

5) 考察

古墳墳丘盛土直下の炭化物層の堆積当時は、メダケ属（おもにネザサ節）などの竹籠類を主体として、キビ族、ウシクサ族なども見られるイネ科植生であったと考えられ、周辺にはブナ属などの樹木が生育していたと推定される。炭化物層下位でも、おおむね同様の状況であったと考えられ、炭化物層との間に明瞭な差異は認められなかった。

炭化物層では、その給源となった植物の検出が期待されたが、これを示唆するような明瞭な結果は得られなかっ

た。また、イネ、ムギ類、ヒエ、アワ、キビなどのイネ科栽培植物に由来する植物珪酸体は、いずれの試料からも検出されなかった。

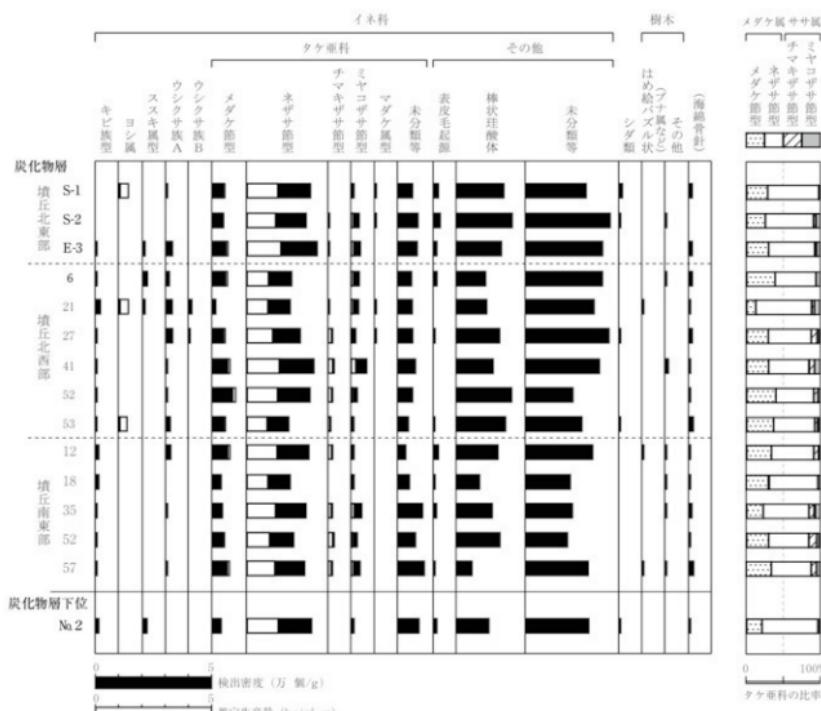
参考文献

- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケア科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-、考古学と自然科学、19, p.69-84.
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）-数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-、考古学と自然科学、9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）-プラント・オパール分析による水田址の探査-、考古学と自然科学、17, p.73-85.
- 松谷曉子（2004）灰像と考古学、環境考古学ハンドブック、朝倉書店、p.285-294.

第4表 春日社古墳における植物珪酸体分析結果

分類群	学名	地点・試料			墳丘東部					墳丘西部					墳丘南東部					No.2
		S-1	S-2	E-3	6	21	27	41	52	53	12	18	35	52	57					
イネ科	Gramineae																			
キビ族型	Panicoidae type				7	7	21	7	7	6	14	14	7	7	7	14				
ヨシ属	Phragmataceae	7					7			6										
ススキ属型	Misandriidae type				7	15	7													14
ウシクサ属A	Andropogoneae A type	7	28		15	27	29	7	7	19	21		7		7					
ウシクサ属B	Andropogoneae B type				14	7														
タケ属	Bambusoideae																			
メダケ属型	Pleiodontia sect. Nipponocalamus	49	44	62	59	14	50	69	91	51	69	35	40	48	67				35	
ネザサ属型	Pleiodontia sect. Nezasa	281	262	310	198	192	236	296	279	185	274	192	261	207	255				286	
チマキサ属型	Sasa sect. Sasa etc.				7	7		7	21	28	21	13	21	20	28	20				
ミヤコザサ属型	Sasa sect. Crassimodi	14	36	41	37	34	21	60	28	13	14	14	47	28	40				14	
マダケ属型	Phyllachrysea	7	7			7	7													
木分類等	Others	63	87	83	39	62	64	76	63	45	34	50	107	76	114				91	
その他のイネ科	Others																			
表皮毛起源	Husk hair origin	21	29	14	15		7			6	21	7	13		7				14	
棒状珪酸体	Rod-shaped	204	240	193	125	130	186	158	237	211	178	99	154	187	67				139	
木分類等	Others	260	363	331	330	294	358	317	203	242	288	192	201	180	269				272	
シダ類	Fern	14	7				7		6										7	
樹木起源	Arcoreal																			
はじめにパズル状 (アーチ型など)	Jigsaw puzzle shaped Figur etc.				7						7				7					
その他	Others		7		7		14				7	7	7	7	7					
(海綿骨針)	Sponge spicules	14	14	15	7	14	7	7	19		7	7	13	7	20				7	
植物珪酸体総数	Total	927	1000	1083	866	821	1002	1039	936	804	947	610	864	761	866				886	
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m ² ·cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出																				
ヨシ属	Pleiodontia	0.44				0.43				0.40										
スキ属型	Misandriidae type				0.09	0.18	0.08												0.17	
メダケ属型	Pleiodontia sect. Nipponocalamus	0.57	0.51	0.72	0.68	0.16	0.58	0.80	1.05	0.59	0.80	0.41	0.47	0.56	0.78				0.40	
ネザサ属型	Pleiodontia sect. Nezasa	1.35	1.26	1.49	0.95	0.92	1.13	1.42	1.34	0.89	1.32	0.92	1.25	1.00	1.22				1.37	
チマキサ属型	Sasa sect. Sasa etc.		0.05	0.05		0.05	0.16	0.21	0.16	0.10	0.15	0.15	0.21	0.15						
ミヤコザサ属型	Sasa sect. Crassimodi	0.04	0.11	0.12	0.11	0.10	0.06	0.23	0.08	0.04	0.04	0.04	0.14	0.08	0.12				0.04	
タケ科の比率 (%)																				
メダケ属型	Pleiodontia sect. Nipponocalamus	29	26	30	39	13	30	30	40	27	34	30	23	30	34				22	
ネザサ属型	Pleiodontia sect. Nezasa	69	65	62	55	75	58	54	51	55	57	67	62	54	54				75	
チマキサ属型	Sasa sect. Sasa etc.		3	2		4	8	8	6	6	7	7	11	7						
ミヤコザサ属型	Sasa sect. Crassimodi	2	6	5	6	8	3	8	3	2	2	3	7	4	5				2	
メダケ率	Medakae ratio	98	92	93	94	88	88	84	91	92	92	97	86	84	88				98	

(資料採取箇所は第4図)



第16図 春日社土壤における植物珪酸体分析結果

(3) 春日社古墳における花粉分析

1) 付箋

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2) 試料(第4図)

分析試料は、春日社古墳の古墳埴丘盛土直下の炭化物層から採取された試料E-1、炭化物層下位から採取された試料S-1の2点である。

3) 方法

花粉の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- ①試料から1cm³を採量
 - ②0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え15分間湯煎
 - ③水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法で砂粒を除去
 - ④25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

⑤水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す

⑥再び水酢酸を加えて水洗処理

⑦沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

⑧検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）及び中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節及び種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示す。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

4) 結果

-1- 分類群

出現した分類群は、樹木花粉4、草本花粉2、シダ植物胞子1形態の計7である。これらの学名と和名及び粒数を第5表に示す。出現した分類群は顕微鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

カバノキ属、クマシデ属-アサダ、コナラ属コナラ亜属、エノキ属-ムクノキ

〔草本花粉〕

ユキノシタ科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子

-2- 花粉群集の特徴

春日古墳（試料E-1、試料S-1）のそれぞれの試料において、花粉構成の特徴を記載する。

- ・試料E-1では花粉密度が極めて低く、草本花粉のヨモギ属、シダ植物単条溝胞子がわずかに出現する。
- ・試料S-1では花粉密度が極めて低く、樹木花粉のカバノキ属、クマシデ属-アサダ、コナラ属コナラ亜属、エノキ属-ムクノキ、草本花粉のユキノシタ科、ヨモギ属、シダ植物単条溝胞子がわずかに出現する。

5) 花粉分析から推定される植生と環境

分析の結果、試料E-1、試料S-1とともに花粉密度は極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解されるような乾燥あるいは乾湿を繰り返すような堆積環境であったか、堆積速度が速かったことなどが考えられる。わずかに出現する花粉はいずれも風媒花植物で、ヨモギ属などの草本とコナラ属コナラ亜属やクマシデ属-アサダなどの落葉広葉樹が、周辺にまたは周辺地域に生育していたと推定される。

参考文献

- 金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原。新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法、角川書店、p.248-262。
 島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集、60p。
 中村純（1967）花粉分析。古今書院、p.82-110。
 中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として。第四紀研究13,p.187-193。
 中村純（1977）稲作とイネ花粉。考古学と自然科学、第10号、p.21-30。
 中村純（1980）日本産花粉の標識。大阪自然史博物館収蔵目録第13集、91p。

第5表 春日社古墳における花粉分析結果

学名	分類群	和名	E-1	S-1
Arboreal pollen	樹木花粉			
Betula	カバノキ属	1		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クワシデ属-アサガ	2		
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	1		
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属ムクノキ	1		
Nonarboreal pollen	草本花粉			
Saxifragaceae	ユキノシタ科		1	
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	2	3	
Fern spore	シダ植物孢子			
Monslate type spore	單孔植物孢子	5	9	
Arboreal pollen	樹木花粉	0	5	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	
Nonarboreal pollen	草本花粉	2	4	
Total pollen	花粉粒数	2	9	
Pollen frequencies of 1 cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	1.6 x10	2.1 x10	
Unknown pollen	未同定花粉	0	1	
Fern spore	シダ植物孢子	5	9	
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	
Charcoal fragments	微細炭化物	(+)	(++)	

(4) 春日社古墳における樹種同定

1)はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2) 試料

試料は、春日社古墳より出土した鉄鏃の矢柄部1点である。

3) 方法

試料の表面から横断面（木口と同義）、放射断面（粋目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面に近い部分を、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質及び現生標本との対比によって行った。

4) 結果

試料はタケ亜科 Bambusoideae であった。以下に同定根拠となった特徴を記し、各断面の顕微鏡写真を示す。

タケ亜科 Bambusoideae イネ科

横断面：部分的ではあるが、基本組織である柔細胞と並立維管束が見られる。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が輪幅方向に配列している。

以上の形質よりタケ亜科に同定される。タケ亜科にはマダケ属、メダケ属、ササ属などがある。

5) 所見

同定の結果、春日社古墳の鉄鏃の矢柄部はタケ亜科であった。タケ亜科にはマダケ属、メダケ属、ササ属など多くの種類が存在し、日本各地に分布する。なかでもヤダケ (*Pseudosasa japonica* Makino) は、節間が長く丈夫で節が低いので、古来弓の矢に用いられた。もとは屋久島あたりの原産で、矢などに使用する目的で植え歩いたものと考えられ、山野に野生化している。

参考文献

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p.49-100.

島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p.296

山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p.24

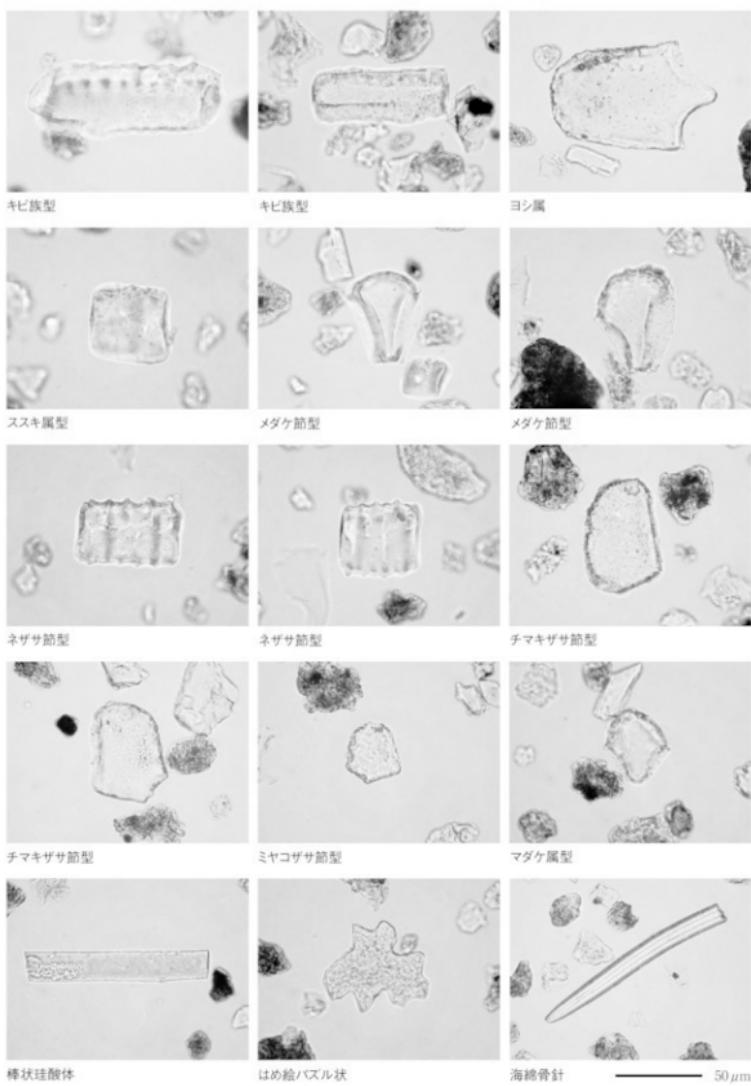


写真2 春日社古墳の植物珪酸体（プラント・オパール）

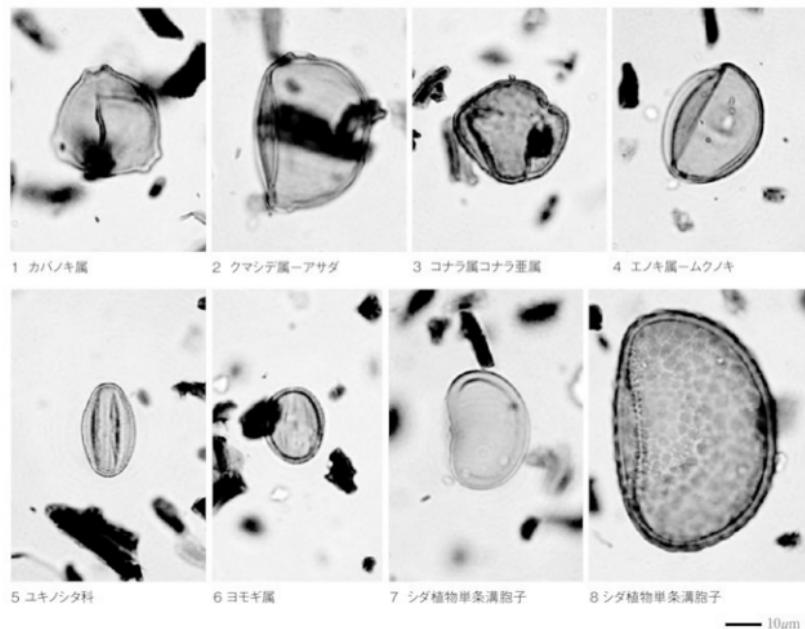


写真3 春日社古墳の花粉・胞子

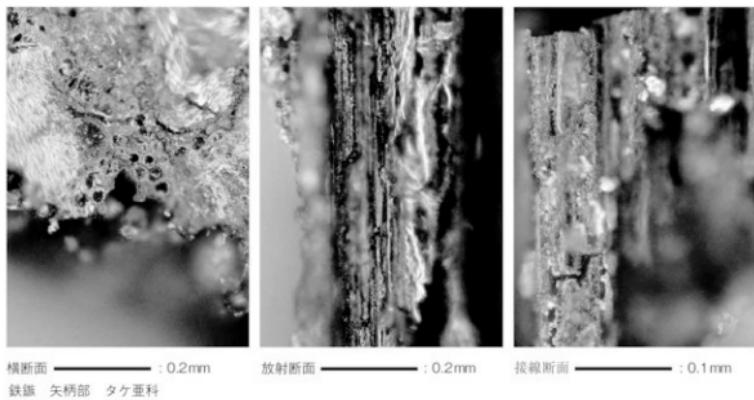


写真4 春日社古墳の木材

4. まとめ

大野田古墳群12D区の中で行った今回の調査で、春日社古墳は2つの主体部を持つ径約32mの円墳であることを確認することができた。このうち、第1主体部では石棺があった可能性を示唆するに留まつたが、第2主体部では革盾・鉄矛・鉄鎌といった希少な副葬品が出土した。

(1) 遺構について

- 1) 春日社古墳は基本層V層相当土の上に埴丘を築造している。
- 2) 第1主体部掘り込み面の標高は11.90m、第2主体部は12.00mで、東西ベルト13・14層を削り込んで構築している。
- 3) 第1主体部は不整形の掘り込みで、円錐、板石、白色粘土が出土した。
- 4) 第2主体部は2段の掘り込みをもつ墓壇で、1段目から革盾等の副葬品が出土した。
- 5) 革盾の出土状況から、第2主体部の被葬者の頭位方向は南東側と推定される。
- 6) 第1主体部と第2主体部の先後関係は分からなかった。
- 7) 基底面上から炭化物の薄層を全面に検出し、古墳築造の際に整地あるいは祭祀といった人為的な行為が行われていたことが考えられる。

(2) 遺物について

- 1) 革盾は、内区をII字形で区画し銘文で飾ったという点で、橋本分類のI式（橋本 2001）に含まれ、菱形文、三角窓付銘文など細部の文様構成は、青木分類の2期II類（青木 2003）に該当する。福井県天神山7号墳や、大阪府岡本山A-3号墳出土例と類似し、同心円状に内部を刺し縫いして充填する一群に比べ作り方が省力化された一群と考えられる。
- 2) 鉄矛は、断面菱形の錐作りの刃部、細錐、断面円形で端部に山形抉の入った袋部等の特徴から、5世紀後半～5世紀末と考えられる（臼杵 1985）。
- 3) 鉄鎌は、長頭、腸抉三角形の鎌身形状、圓部台形といった特徴から、杉山編年のⅣ～Ⅴ期（杉山 1988）、水野編年の中期5段階～後期1段階（水野 2003）に該当し、5世紀後半～6世紀初頭と考えられる。
- 4) 墳輪は、朝顔形埴輪の肩部外面調整が摩滅で判然としなかったものの、円筒埴輪片は概ね端正なM字凸帯である。富沢窪2a段階と考えられ（仙台市教育委員会 1987・2000）、およそ5世紀後半～6世紀前葉であり、昭和51年度の調査成果の範疇にはほぼおさまる内容である。

(3) まとめ

春日社古墳は東北で初の革盾を出土した古墳で、他に鉄矛や鉄鎌等が出土しており、被葬者と中央政権との係わりが想起される希少な例である。出土遺物の対応関係からみると5世紀後半～6世紀初頭の年代が与えられる。周囲には前述の大野田古墳群28号墳をはじめ、1号、2号、3号、4号墳等多くの古墳が密集しており、埴丘規模・副葬品の内容から、本古墳は盟主墳であった可能性が考えられる。周辺には推定全長37.00mの前方後円墳である鳥居塚古墳があるが、鳥居塚古墳出土の埴輪は富沢窪2段階と位置づけられており（仙台市教育委員会 1987）、春日社古墳との年代差を見出すことは難しい。埴輪形態を考慮すれば本古墳が後出する可能性も考えられるが、詳細は不明である。また、遺物の内容も特筆できる。革盾は全国的にみても遺存状態が良好な資料である。鉄鎌は矢羽根の痕跡とセットで出土しており、通常矢柄・矢羽根が遺存しないことを考えると、当時の矢の寸法等を考える上で貴重な事例である。

春日社古墳写真図版



春日社古墳全景（北西より）



東側周溝断面（南より）

写真図版 1 春日社古墳（1）



第1主体部・第2主体部（東より）



第1主体部礫出土状況（東より）

写真図版2 春日社古墳（2）



第1 主体部（東より）



第2 主体部木棺掘り方検出状況（東より）

写真図版3 春日社古墳（3）



第2主体部（東より）



第2主体部革盾出土状況（東より）

写真団版4 春日社古墳（4）



1
(第8・9図)



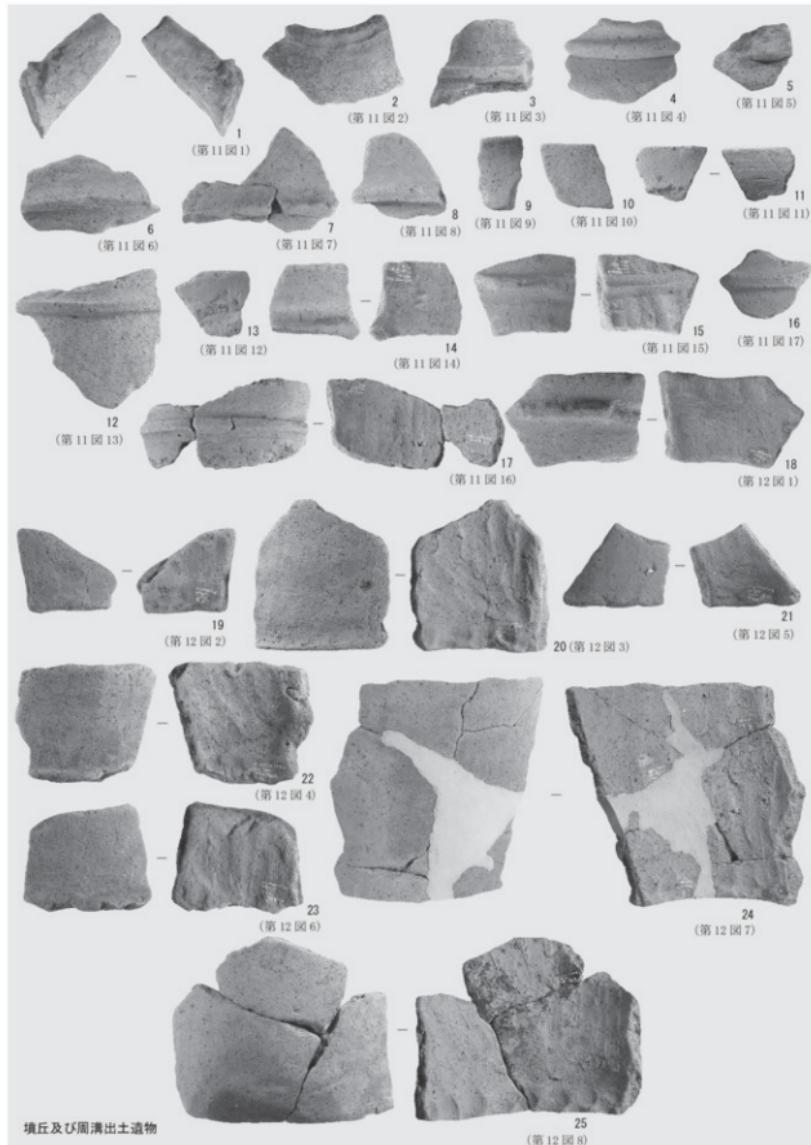
2
(第10図1)



3
(第10図2)

第2 主体部出土遺物

写真図版 5 春日社古墳出土遺物（1）



写真図版6 春日社古墳出土遺物（2）

第8節 大野田官衙遺跡

1. 調査要項

(1) 遺跡名：大野田官衙遺跡（宮城県遺跡登録番号01566）

袋前遺跡	2 A区	SB31掘立柱建物跡
	2 B区	SB60掘立柱建物跡
	3 区	SB121掘立柱建物跡
六反田遺跡	2 B区	SD185溝跡
	5 C区	SB64掘立柱建物跡、SD57溝跡
	6 A区	SD 6 溝跡
	5 A区	SD253溝跡
	8 A区	SD421溝跡
大野田古墳群	9 A区	SB464掘立柱建物跡
	11 D区	SD73溝跡
	13B区	SB135掘立柱建物跡、SD181溝跡
	13C区	SD10溝跡
	14 B区	SD 2 溝跡

(2) 所在地：仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田、袋前、六反田

(3) 調査主体：仙台市教育委員会

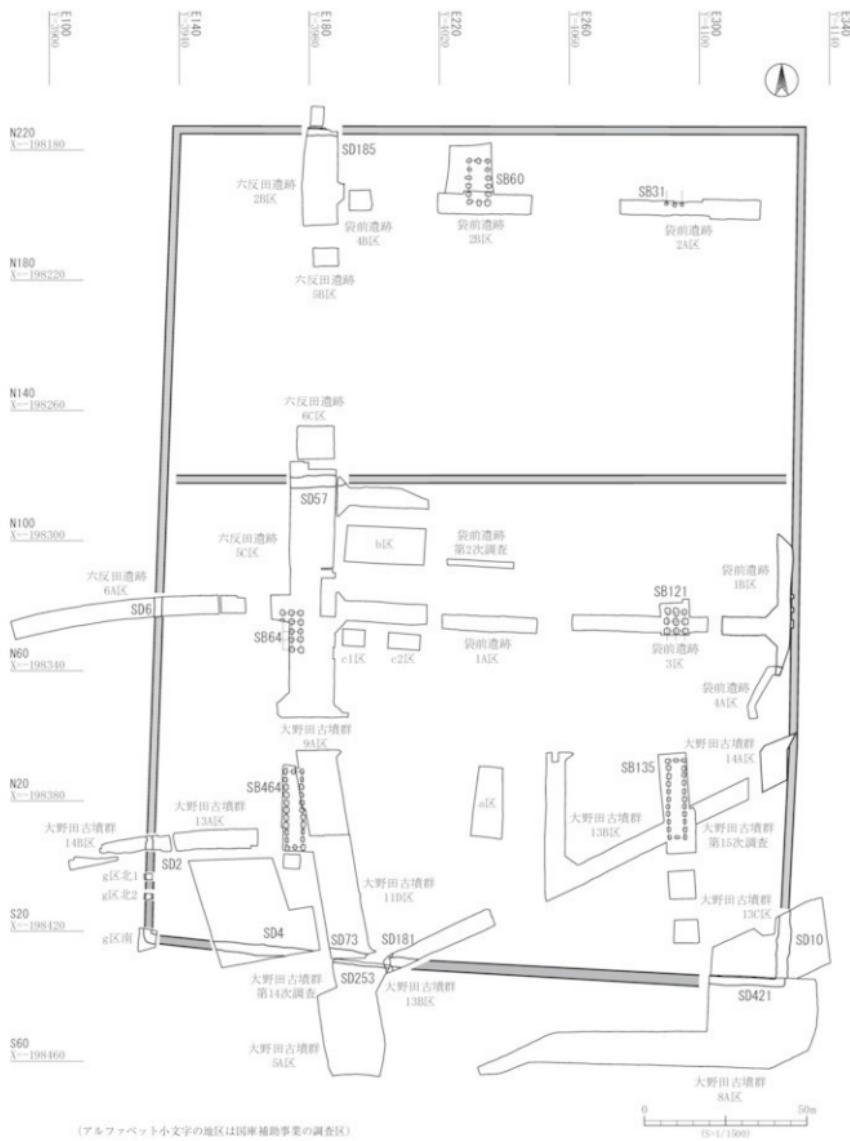
(4) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課

(5) 担当職員

- ・平成13年度：篠原信彦・阿部博朗
- ・平成15年度：佐藤 淳・橋本顕嗣
- ・平成16年度：荒井 格・木幡賀一
- ・平成17年度：荒井 格（派遣職員：田中美徳・中村祐一/国際文化財）
- ・平成18年度：佐々木 匠
- ・平成20年度：佐々木 匠・平間亮輔・小泉博明（派遣職員：日紫喜勝重/国際文化財）
- ・平成21年度：平間亮輔・小泉博明・大久保弥生・川本剛史・吉野 信（派遣職員：土沼章一/国際文化財）

(6) 調査期間

(野外調査)	袋前遺跡 2 A・B区	平成13年度：平成13年10月12日～平成14年1月24日
	袋前遺跡 3区	平成15年度：平成15年5月6日～6月26日
	六反田遺跡 2 B区	平成17年度：平成17年10月12日～平成18年2月22日
	六反田遺跡 5 C区	平成20年度：平成20年6月2日～11月27日
	六反田遺跡 6 A区	平成21年度：平成21年4月30日～7月21日
	大野田古墳群 5 A区	平成12年度：平成12年5月1日～6月26日
	大野田古墳群 8 A区	平成15年度：平成15年7月1日～12月9日
	大野田古墳群 9 A区	平成16年度：平成16年5月7日～10月20日
	大野田古墳群 11D区	平成18年度：平成18年9月1日～平成19年2月23日
	大野田古墳群 13B区	平成20年度：平成20年6月18日～9月12日



第1図 大野田官衙遺跡遺構配置図

・大野田古墳群13C区 平成20年度：平成20年6月2日～7月3日

・大野田古墳群14B区 平成21年度：平成21年5月19日～12月14日

(整理作業) 各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。

・平成22年6月18日～平成23年3月31日

2. 検出された遺構と遺物

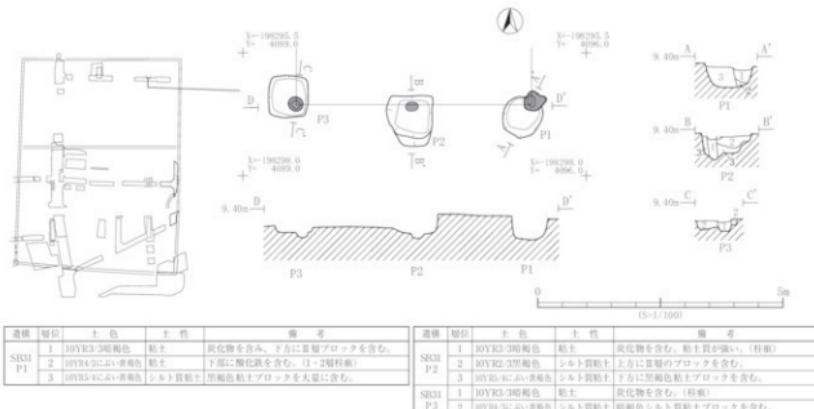
平成13年度の袋前遺跡2A・B区での調査以降、周辺から古代の大型掘立柱建物跡や大溝が検出されていたが、部分的な発見にとどまっていたため全体像を把握するまでには至っていなかった。しかし、平成16年度に行われた大野田古墳群9A区でのSB464掘立柱建物跡（仙台市教育委員会 2004）や、平成19年度に行われた六反田遺跡4B区でのSB64掘立柱建物跡（仙台市教育委員会 2007）の検出もあり、官衙の存在が考えられるようになってきた。

平成21年には名称も「(仮称) 大野田官衙遺跡」とし、国庫補助による遺構確認調査も実施された（仙台市教育委員会 2009）。その結果、大溝が方形に巡る範囲内（南北約259m、東西約196m）に大型の掘立柱建物跡が規則的に配置された状況が明らかになり、古代官衙の遺構であることがほぼ確実視された。また、同年7月、国史跡である郡山遺跡に関連する重要な官衙遺構群と考えされることから、大野田官衙遺跡として新たに登録した。

1) 掘立柱建物跡

各調査区から検出された掘立柱建物跡は、袋前遺跡2A区で1棟(SB31)、袋前遺跡2B区で1棟(SB60)、袋前遺跡3区で1棟(SB121)、大野田古墳群9A・11D区で1棟(SB464)、大野田古墳群13B区で1棟(SB135)、六反田遺跡5C区で1棟(SB64)の計6棟である。

これら6棟の建物群は、方形に区画された大溝の中に配置されている。建物配置をみると、各建物は概ね真北を基準として、東列(SB31・121・135掘立柱建物跡)と、西列(SB64・464掘立柱建物跡)に大きく分けられる。また、両者間の南北中軸線上の北側に、東列北端のSB31と南妻列で掘っているSB60掘立柱建物跡が配置されている。また、柱穴配置をもとにその違いに着目してみると、側柱建物(SB135・464・60)と、総柱建物(SB121・64)に大別される。東列SB31の詳細は明らかでないが、南北中軸線上の北側に配置されたSB60と南妻列で掘っている点



第2図 SB31掘立柱建物跡平面図・断面図

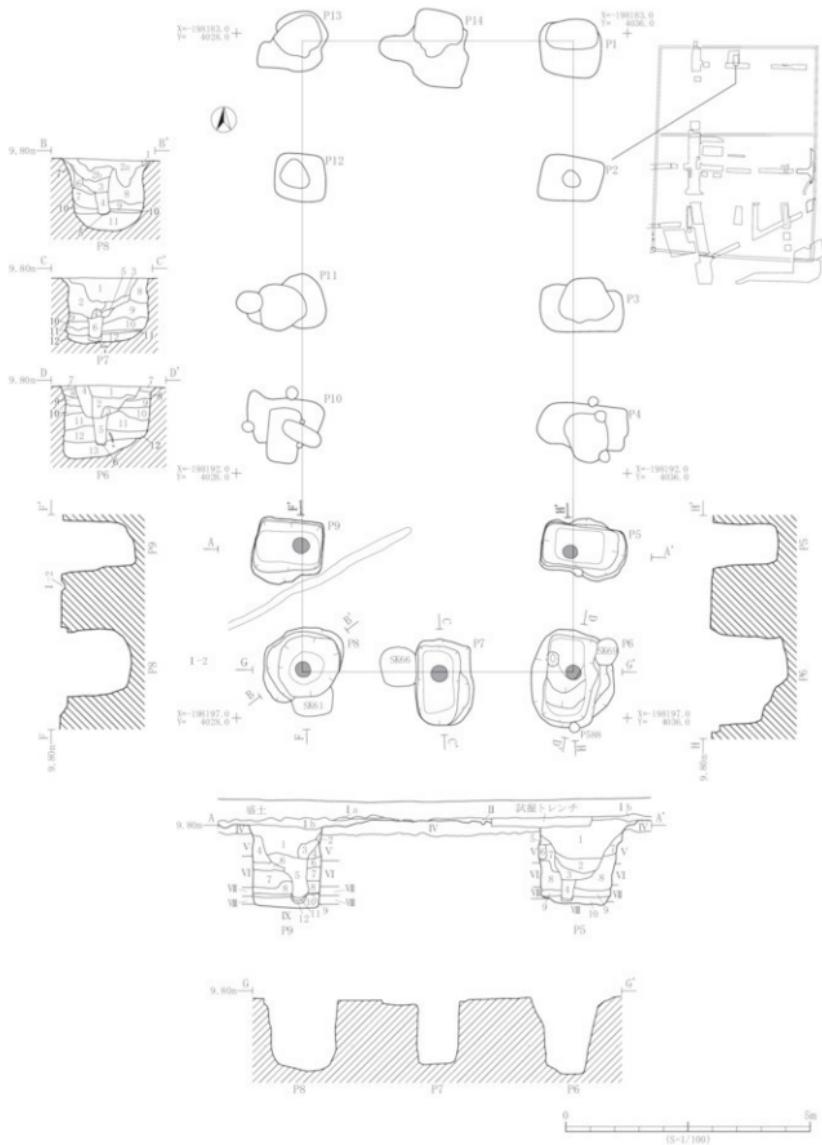
を考慮すると、SB31も側柱建物の可能性が高い。これらの建物を平面形の違いでみると、東列のSB135は桁行10間、梁行2間の側柱建物で、西列のSB464と規模及び構造をほぼ同じくする。また、西列のSB64は桁行5間、梁行2間の純柱建物で、東列のSB121とはほぼ同じ規模・構造の建物であったと考えられる。現状では側柱建物と純柱建物がそれぞれ東西に1棟ずつ配置されていた可能性が高い。また、東西列の北側（六反田遺跡2B区）にも左右対称に配置された側柱建物の存在が指摘でき、両者間の中軸線上のSB60を加えると、3棟の側柱建物が北側に配置されていたと考えられる。

SB31掘立柱建物跡（第2図、図版1） 袋前遺跡2A区のE280～290・N210グリッドに位置し、擾乱による削平が深く、基本層のV層中で確認された。袋前遺跡2B区SB60掘立柱建物跡と比較すると、桁行の詳細は不明であるが梁行南妻柱列の2間が確認されたものと考えられ、北側の調査区外へ延びる。建物規模は梁行総長4.80m、柱間寸法は2.40m等間である。桁行規模の不明な建物であるが、SB60と同等の建物と考えると、桁行5間、梁行2間の南北棟建物と想定される。主軸方向はN-0°-Wである。柱穴の柱掘り方は方形を基本形とする。擾乱が深かったこともあり、規模は長軸84～102cm、短軸80～94cmで、遺構確認面からの深さは14～50cmでばらつきがあるが、底面の標高はほぼ一致している。柱痕跡は直径18～35cmで、掘り方の底面から柱の位置を示す窪みが検出されている。埋土はにぶい黄褐色・黒褐色の粘土質シルトである。遺物は、土師器の小破片が少量出土した。

SB60掘立柱建物跡（第3図、図版2・3） 袋前遺跡2B区のE220～230・N220～230グリッドに位置する。若干の擾乱があったため基本層V層で確認されたが、調査区北壁の東西断面をみると、IV層からの掘り込みであることが分かる。平成13年の調査では、SB60建物の南側が調査され、平成16年度に北側が確認調査されたことにより桁行5間、梁行2間の側柱建物であることが確定した。規模については、遺構プラン確認のみで終了した部分もあるが、柱痕跡や柱抜き取り痕跡などを手がかりに求めると、桁行総長12.90m、梁行総長5.55m、心々部分の面積は71.6m²である。主軸方向はN-0°-Wである。柱間寸法は桁行東側柱列では北から1間目（P1-P2）が2.85m、2間目（P2-P3）、3間目（P3-P4）が2.55m、4間目（P4-P5）、5間目（P5-P6）が2.40m、同様に西側柱列では1間目（P13-P12）、2間目（P12-P11）が2.70m、3間目（P11-P10）が2.55m、4間目（P10-P9）が2.40m、5間目（P9-P8）が2.70mとなる。梁行柱間寸法は両妻柱列（P1-P14-P13、P6-P7-P8）とも梁行総長5.55mを二等分したものと考えられる。柱穴の柱掘り方については、柱穴の調査を行ったP1～5のみの所見であるが、掘り方の規模は長軸140～200cm、短軸90～170cmで、平面形は概ね長方形を基本とする。遺構確認面からの深さは130～150cmである。それぞれの土層断面には柱抜き取り痕跡が確認され、また下位には径20～30cmほどの柱痕跡が認められる。北側で確認した柱穴（P1～P4・P10～P14）は平面プラン確認のみであるため詳細は不明だが、柱の抜き取り痕跡と思われるプランが確認されている。柱穴の柱掘り方の規模は、長軸106～190cm、短軸100～160cmである。平面形は概ね方形もしくは長方形であるが、一部に不整形のものも含まれる。埋土はV層を多く含む黒褐色・にぶい黄褐色のシルト質粘土、暗褐色・褐色・黄褐色の粘土である。遺物は、柱穴P5から須恵器長頸壺の肩部片と轆の羽口片、それに土師器小片が出土している。このうち須恵器長頸壺の肩部片を第4図に図示した。全体的に白みがかった胎土で、肩部には緑灰色の自然釉が掛かっている。胎土や焼成、自然釉などの特徴より湖西窯系の製品と考えられ、8世紀前半のものと思われる。

SB64掘立柱建物跡（第5図、図版4・5） 六反田5C区のE170・N70～80グリッドに位置し、基本層V層で確認された。南西側の調査区外へ延びることから全容は不明であるが、桁行4間、梁行2間の東西棟の純柱建物である。また、同位置・同規模での建て替え（a期→b期）が認められ、袋前遺跡3区で検出されたSB121とは東西対になる建物である。

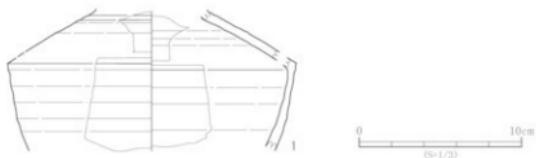
b期の建物規模について柱のあたりや柱抜き取り痕跡などを手がかりに求めると、桁行総長11.40m、梁行総長5.40m、心々部分の面積は約62m²である。主軸方向はN-1°-Wである。柱間寸法は、桁行東側柱列では両端間



第3図 SB60振立柱建物跡平面図・断面図

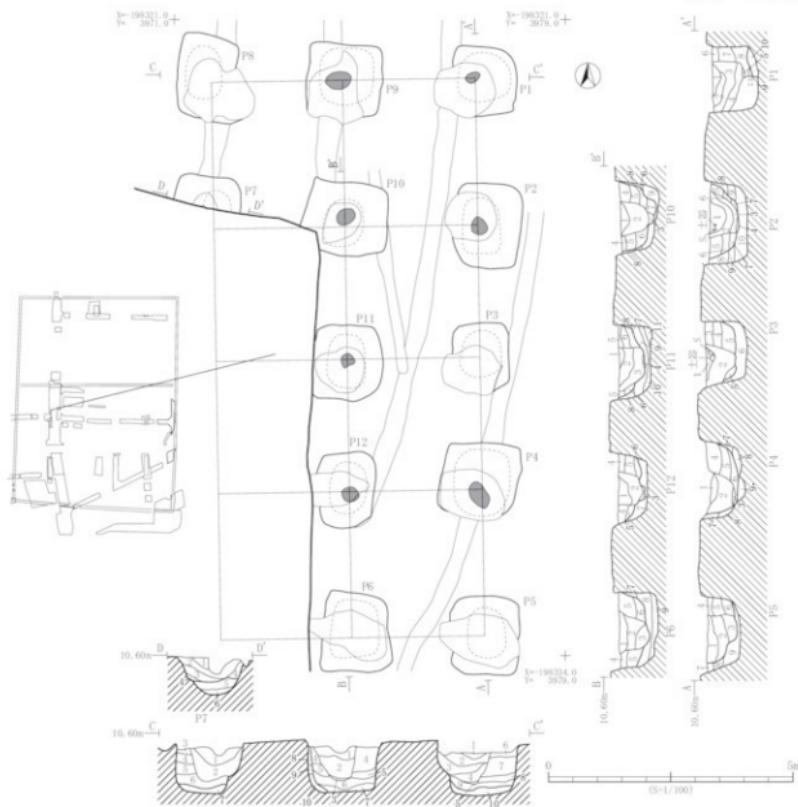
SB60土柱跡記

遺構	層位	土 色	性 優	備 考	遺構	層位	土 色	性 優	備 考																																																																																																																											
SB60 P5	1	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土質シルト	炭化物・明褐色シルト・黒洋土を含む。	SB60 P7	7	10YR4-2E 黄褐色	粘土	明褐色ブロックを含む。																																																																																																																											
	2	10YR3-4B 黄褐色	粘土	黄褐色シルト大ブロックを含む。	3	10YR4-3B 黄褐色	粘土	粘土質シルト。	4	10YR4-2B 黄褐色	粘土質	炭化物・黄褐色粘土小ブロックを含む。	5	10YR4-2B 黄褐色	粘土	明褐色シルトを含む。	6	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土ブロックを含む。	7	10YR2-2B 黄褐色	粘土	-	8	10YR2-2B 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土・黒土トロリカ土を含む。	9	10YR4-4B 黄	シルト	明褐色粘土シルトを含む。	10	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土質シルト	炭化物・黒褐色粘土シルトを含む。	11	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色粘土シルトを含む。	SB60 P6	1	10YR2-2B 黄褐色	シルト	黄褐色・黒褐色・にぶい黄褐色シルトブロックを含む。	SB60 P8	1	10YR4-2B 黄褐色	粘土	明褐色ブロックを含む。	2	10YR2-2B 黄褐色	粘土	炭化物・黒洋土・黒褐色粘土シルトを含む。	3	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土	炭化物・黒褐色粘土シルトを含む。	4	10YR3-4B 黄褐色	シルト	黄褐色粘土シルト・小ブロックを含む。	5	10YR2-2B 黄褐色	粘土	炭化物・黒褐色・泥炭・樹木シルトを含む。	6	10YR4-4B 黄	シルト	明褐色シルトを含む。	7	10YR2-2B 黄褐色	粘土	炭化物・黒褐色シルトを含む。	8	10YR3-2B 黄褐色	粘土質	炭化物・黒褐色粘土シルトを含む。	9	10YR4-4B 黄	シルト	明褐色粘土シルトを含む。	10	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色粘土シルトを含む。	SB60 P7	1	10YR2-2B 黄褐色	シルト	炭化物・黒褐色シルトブロックを含む。	SB60 P9	1	10YR4-2B 黄褐色	粘土	明褐色シルト大ブロックを含む。	2	10YR2-2B 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土シルトブロックを大層に含む。	3	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土	炭化物を含む。	4	10YR4-2B 黄褐色	粘土	炭化物を含む。	5	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土	明褐色粘土を多く含む。炭化物を含む。	6	10YR3-2B 黄褐色	粘土	明褐色粘土シルトを含む。	7	10YR2-2B 黄褐色	粘土	明褐色シルト粘土質粘土シルトブロックを含む。	8	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色シルト大ブロックを含む。	9	10YR4-2C-5(黄褐色)	粘土質	明褐色シルト大ブロックを含む。	10	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色粘土シルトを含む。
	3	10YR4-3B 黄褐色	粘土	粘土質シルト。																																																																																																																																
	4	10YR4-2B 黄褐色	粘土質	炭化物・黄褐色粘土小ブロックを含む。																																																																																																																																
	5	10YR4-2B 黄褐色	粘土	明褐色シルトを含む。																																																																																																																																
	6	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土ブロックを含む。																																																																																																																																
	7	10YR2-2B 黄褐色	粘土	-																																																																																																																																
	8	10YR2-2B 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土・黒土トロリカ土を含む。																																																																																																																																
	9	10YR4-4B 黄	シルト	明褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
	10	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土質シルト	炭化物・黒褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
	11	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
SB60 P6	1	10YR2-2B 黄褐色	シルト	黄褐色・黒褐色・にぶい黄褐色シルトブロックを含む。	SB60 P8	1	10YR4-2B 黄褐色	粘土	明褐色ブロックを含む。																																																																																																																											
	2	10YR2-2B 黄褐色	粘土	炭化物・黒洋土・黒褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
	3	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土	炭化物・黒褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
	4	10YR3-4B 黄褐色	シルト	黄褐色粘土シルト・小ブロックを含む。																																																																																																																																
	5	10YR2-2B 黄褐色	粘土	炭化物・黒褐色・泥炭・樹木シルトを含む。																																																																																																																																
	6	10YR4-4B 黄	シルト	明褐色シルトを含む。																																																																																																																																
	7	10YR2-2B 黄褐色	粘土	炭化物・黒褐色シルトを含む。																																																																																																																																
	8	10YR3-2B 黄褐色	粘土質	炭化物・黒褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
	9	10YR4-4B 黄	シルト	明褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
	10	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
SB60 P7	1	10YR2-2B 黄褐色	シルト	炭化物・黒褐色シルトブロックを含む。	SB60 P9	1	10YR4-2B 黄褐色	粘土	明褐色シルト大ブロックを含む。																																																																																																																											
	2	10YR2-2B 黄褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土シルトブロックを大層に含む。																																																																																																																																
	3	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土	炭化物を含む。																																																																																																																																
	4	10YR4-2B 黄褐色	粘土	炭化物を含む。																																																																																																																																
	5	10YR4-3C-5(黄褐色)	粘土	明褐色粘土を多く含む。炭化物を含む。																																																																																																																																
	6	10YR3-2B 黄褐色	粘土	明褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																
	7	10YR2-2B 黄褐色	粘土	明褐色シルト粘土質粘土シルトブロックを含む。																																																																																																																																
	8	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色シルト大ブロックを含む。																																																																																																																																
	9	10YR4-2C-5(黄褐色)	粘土質	明褐色シルト大ブロックを含む。																																																																																																																																
	10	10YR4-4B 黄	粘土	明褐色粘土シルトを含む。																																																																																																																																



第4図 SB60掘立柱建物跡出土遺物

(P1-P2、P4-P5) が3.00m、北から2間目 (P2-P3)・3間目 (P1-P4) が2.70mである。西側柱列も同様と考えられるが調査区外へ延びるため不明である。梁行柱間寸法は、両妻柱列 (P1-P9-P8、P5-P6) とも2.70m等間である。柱穴の柱掘り方の規模は、長軸140~175cm、短軸115~175cm、深さ75~110cmで、平面形は概ね方形もしくは長方形である。各柱穴のプラン確認時には柱の抜き取り痕跡と考えられる不整形のプランが確認されている。また、柱抜き取り痕跡の底面からは柱のあたりが確認されており、これらを手がかりに規模を推定している。埋土はV層を多く含む黒褐色やにぶい黄褐色の砂質シルト、黒褐色の粘土質シルトである。遺物は、柱穴P1から平瓦片と須恵器小破片、柱穴P2から平瓦片と土師器坏小破片、柱穴P3から土師器塊と土師器坏小破片、柱穴P4から土師器坏・甕の小破片、他に土師器・須恵器の小破片が出土している。このうち3点について第6図に図示した。1は柱穴P3の柱抜き取り痕跡から出土した身の深い土師器塊である。底部は平底で、体部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。内面にヘラミガキ、黒色処理されているが、外面は剥離及び摩耗のため調整不明である。2は柱穴P2の柱抜き取り痕跡から出土した平瓦である。比較的広端部に近い破片で、凹面に糸切り痕と布目痕、凸面に縄タタキの痕跡がみられ、側縁にはヘラ調整が施されている。3は柱穴P1から出土した平瓦片で、凹面には糸切り痕・布目痕・棒板压痕、凸面には縄タタキの痕跡がみられる。側縁にはヘラ調整が施されている。粘土板巻作りと考えられる。柱の抜き取り穴から出土した1の土師器塊はロクロ未使用で、平底を呈している。底部の成形や、わずかに外反する口縁部、口唇端部外面の特徴は国分寺下層式には認められないことから、時期は8世紀初頭を下限とするものと考えられる。



第5図 SB64掘立柱建物跡平面図・断面図

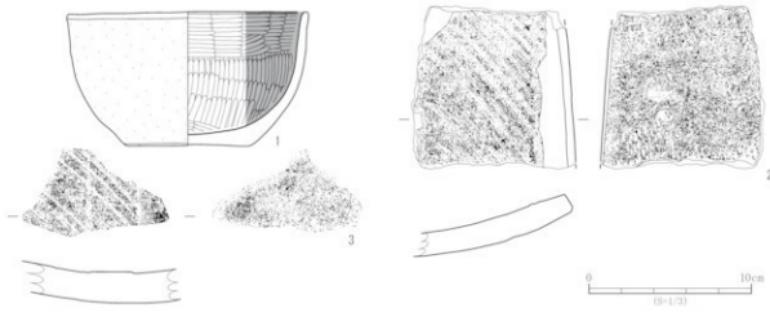
SB64土層記述(1)

地層	層号	土色	土性	標名	地層	層号	土色	土性	標名	
SB64 P1	1	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量、褐色粘土質シルトをブロック状に含む。土中に無機物を多く含む。(上部は砂質)	SB64 P2	8	10YR2-2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。に少い青褐色、褐色のプロック状に微量含む。(上部は砂質)	
	2	10YR3-2暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量、褐色粘土質シルトをブロック状に含む。(上部は砂質)		9	10YR3-3C-2黄褐色	砂質シルト	炭化物を微量、黑褐色をブロック状に少量含む。(a面削り方削)	
	3	10YR4-2暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量、黒褐色粘土質シルトを大ブロック状に少量含む。(下部は砂質土。(上部は砂質))		10	10YR2-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物の粒子、ブロック状に微量含む。(a面削り方削)	
	4	10YR3-2暗褐色	粘土質シルト	炭化物粒を微量、黒褐色粘土質シルトをブロック状に含む。(上部は砂質)		1	10YR3-2黒褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。黒褐色をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	5	7.5Y7-19C白色	シルト	黒褐色をブロック状に少量含む。下層に酸化鉄分、褐色を含む。(b面削り方削)		2	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。土中に少量が混入。(b面削り方削)	
	6	10YR3-2暗褐色	粘土質シルト	黒褐色の大ブロックを中央に、褐色ブロックを少量含む。(b面削り方削)		3	10YR2-2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。(b面削り方削)	
	7	10YR4-2暗褐色	砂質シルト	黒褐色を微量含む。土中に無機物を多く含む。(b面削り方削)		4	10YR4-2暗褐色	シルト	炭化物をブロック状に少量含む。(b面削り方削)	
	8	10YR4-3C-4A-2黃褐色	砂質シルト	黒褐色の大ブロックを少量含む。黒褐色土ブロックを微量含む。(b面削り方削)		5	10YR4-3C-4A-2黃褐色	シルト	炭化物を微量含む。(b面削り方削)	
	9	10YR4-3C-4A-2黃褐色	砂質シルト	黒褐色の大ブロックを少量含む。黒褐色土ブロックを微量含む。(b面削り方削)		6	10YR4-2暗褐色	砂質シルト	炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	10	10YR4-3C-4A-2黃褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。土中に無機物を多く含む。(b面削り方削)		7	10YR3-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
SB64 P2	1	10YR3-2暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。土中に無機物を多く含む。(b面削り方削)		8	10YR4-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	2	10YR3-3暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量含む。(b面削り方削)		9	10YR4-3C-4A-2黃褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	3	7.5Y7-19C白色	シルト	炭化物を微量、褐色粘土質シルトをブロック状に含む。(上部は砂質)		10	10YR3-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	4	10YR3-2暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量、褐色粘土質シルトをブロック状に含む。(上部は砂質)		11	10YR3-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	5	10YR3-2暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量、褐色粘土質シルトをブロック状に含む。(上部は砂質)		12	10YR3-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	6	10YR3-2暗褐色	粘土質シルト	炭化物を微量、褐色粘土質シルトをブロック状に含む。(上部は砂質)		13	10YR3-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	
	7	10YR3-2暗褐色	シルト	炭化物を微量含む。(b面削り方削)		14	10YR3-2暗褐色	砂質シルト	炭化物を微量含む。炭化物をブロック状に微量含む。(b面削り方削)	

a期は建て替え前の建物で、同位置・同規模の建物と考えられる。a期として確認できる部分は上層断面のみで、それぞれの柱穴土壙断面の下部において確認された。a期の建物の規模及び柱間寸法は、b期とはほぼ同じであったと思われる。

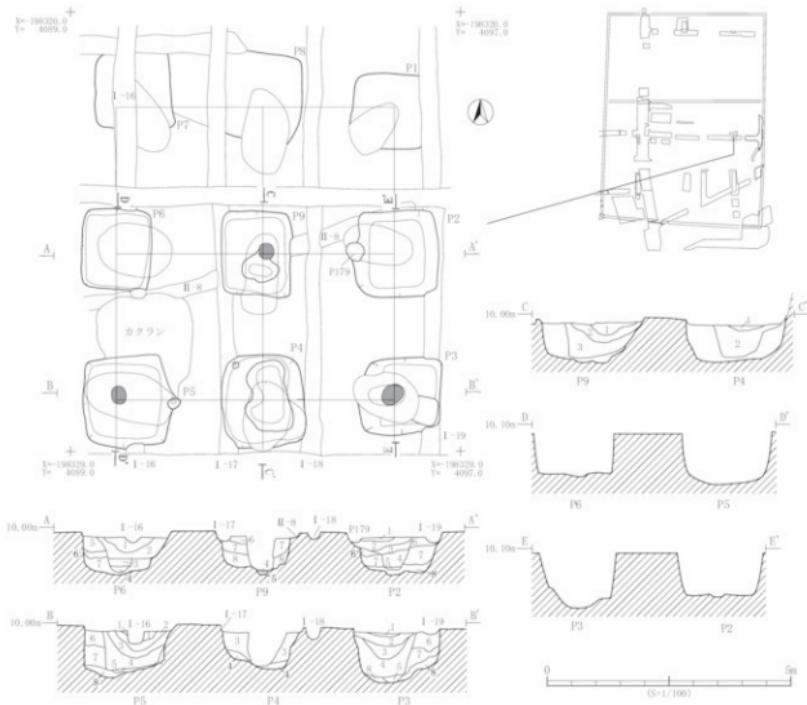
SB64土塙柱記（2）

遺構	層位	土色	土 性	標 号
SB64 P5	1	10YR225K褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に少量含む。(b期後段取)
	2	10YR3-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に少量含む。(b期後段取)
	3	10YR3-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に少量含む。(b期後段取)
	4	10YR3-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に少量含む。(b期後段取)
	5	10YR4-1褐色	砂質シルト	砂的土を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	6	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	砂的土を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	7	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	砂的土を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	8	10YR4-2黑褐色	砂質土	砂的土を微量、にごく黄褐色をブロック状に微量含む。(a期明り方取)
	9	10YR4-2黑褐色	砂質土	黒褐色にごく黄褐色をブロック状に微量含む。(a期明り方取)
SB64 P6	1	10YR4-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後段取)
	2	10YR2-2褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	3	10YR3-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後方取)
	4	10YR2-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物のブロックを微量、にごく黄褐色を含む。(b期後方取)
	5	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物のブロックを微量、黒褐色のブロックを微量含む。(b期後方取)
	6	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	7	10YR4-1褐色	砂質シルト	炭化植物を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	8	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	9	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物を微量、黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
SB64 P7	1	10YR1-1褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	2	10YR3-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、黒褐色をシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	3	7.5Y7-19K白色	シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含む。(b期後方取)
	4	10YR2-2黑褐色	粘土質シルト	黒褐色にごく黄褐色の大ブロックを微量含む。(b期後方取)
	5	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	6	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	7	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	8	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	9	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
SB64 P8	1	10YR4-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	2	10YR4-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	3	10YR4-1褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	4	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物のブロックを微量、にごく黄褐色を含む。(b期後段取)
	5	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物のブロックを微量、にごく黄褐色を含む。(b期後段取)
	6	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物のブロックを微量、にごく黄褐色を含む。(b期後段取)
	7	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物のブロックを微量、にごく黄褐色を含む。(b期後段取)
	8	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物のブロックを微量、にごく黄褐色を含む。(b期後段取)
	9	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	炭化植物のブロックを微量、にごく黄褐色を含む。(b期後段取)
SB64 P9	1	10YR3-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	2	10YR3-2黑褐色	粘土質シルト	炭化植物を微量、にごく黄褐色を含むシルトをブロック状に微量含む。(b期後段取)
	3	7.5Y7-19K白色	シルト	炭化植物をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	4	10YR2-2黑褐色	粘土質シルト	黒褐色にごく黄褐色のブロックを微量含む。(b期後方取)
	5	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	6	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)
	7	10YR4-2黑褐色	砂質シルト	黒褐色をブロック状に微量含む。(b期後方取)



第6図 SB64掘立柱建物跡出土遺物

SB121掘立柱建物跡（第7図、図版6・7） 袋前遺跡3区のE280～290・N80グリッドに位置し、基本層V層で確認された。小溝状遺構I-16～19・II-8と重複関係にあり、本遺構が古い。本建物跡は現状では、桁行2間、梁行2間の純柱建物跡であるが⁵、六反田5C区で検出されたSB64と東西で対になる建物と考えると、桁行4間、



遺構	層位	土 性	備 考	遺構	層位	土 性	備 考
SB121 P2	1 10Y3C-204褐色	粘土質シルト	微小なV層のブロックを少量含む。	3 10Y4A-32-41-3黄褐色	粘土質シルト	灰化色ブロックを含む。一部は層状に含む。	
	2 10Y4A-4褐色	粘土質シルト	V層のブロック（φ20mm内）をやや多く含む。	4 10Y4B-32-41-3黄褐色	粘土質シルト	V層のブロック（φ20mm内）を多く含む。	
	3 10Y4C-304褐色	粘土質シルト	V層のブロック（φ20mm内）を少量含む。	5 10Y4B-32-41-3黄褐色	砂質シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	4 10Y4C-304褐色	粘土質シルト	V層のブロック（φ20mm内）を少量含む。	6 10Y4C-32-41-3黄褐色	砂質シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	5 10Y4C-6黄褐色	砂質土	上・下とも灰化色集積層あり。	7 10Y4C-41-31-3黄褐色	シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	6 10Y4C-30褐色	粘土質シルト	10Y3C-30褐色とV層のブロック（φ20mm内）の混合層。	8 10Y4B-6褐色	シルト	粘土色の粘土質シルトブロック（φ50mm内）を含む。一部は層状に含む。	
	7 10Y4C-41-31-3黄褐色	シルト	粘土質シルト（10Y3C-30褐色とV層のブロック（φ20mm内）を少量含む。	9 10Y4C-41-31-3黄褐色	シルト	粘土色の粘土質シルトブロック（φ50mm内）を含む。大半がV層の混合層。	
	8 10Y4C-6黄褐色	砂質土	粘土質シルト（10Y3C-30褐色とV層のブロック（φ20mm内）を少量含む。	10 10Y4A-4褐色	シルト	粘土色の粘土質シルトブロック（φ50mm内）を含む。一部は層状に含む。	
	9 10Y4A-32-41-3黄褐色	シルト	粘土質シルト（V層のブロック（φ20mm内）を多く含む。	11 10Y4A-4褐色	砂質土	V層のブロック（φ50mm内）を多く含む。	
SB121 P3	1 10Y3C-204褐色	シルト	微化色層と微細なV層を少量含む。	12 10Y4A-32-41-3黄褐色	シルト	黄褐色シルトブロック（φ30mm内）、微化鉄錆を少量含む。上部に微化色集積層あり。	
	2 10Y4A-32-41-3黄褐色	シルト	V層のブロック（φ20mm内）を少量含む。	13 10Y4B-32-41-3黄褐色	シルト	下部に厚さ20mmの微化色集積層あり。	
	3 10Y4A-32-41-3黄褐色	シルト	V層のブロック（φ20mm内）を少量含む。	14 10Y4B-32-41-3黄褐色	シルト	下部に厚さ20mmの微化色集積層あり。	
	4 10Y4C-235褐色	粘土質シルト	V層のブロック（φ100mm内）を多量含む。	15 10Y4B-32-41-3黄褐色	砂質シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	5 23Y5-3黄褐色	砂質土	表面に微化色集積層あり。	16 10Y4B-296黄褐色	粘土質シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	6 10Y4C-41-31-3黄褐色	シルト	粘土質シルトブロック（φ20mm内）を少量含む。	17 10Y4C-41-31-3黄褐色	シルト	10Y4C-41-31-3黄褐色と10Y4B-296黄褐色粘土シルトとの段差層。	
SB121 P4	7 10Y4C-41-31-3黄褐色	シルト	粘土質シルトブロック（φ20mm内）を少量含む。	18 10Y4B-32-41-3黄褐色	シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	8 10Y4C-41-31-3黄褐色	シルト	粘土質シルトブロック（φ20mm内）を少量含む。	19 10Y4B-32-41-3黄褐色	シルト	下部がV層化している。	
	9 10Y4C-404褐色	粘土質シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	20 10Y4C-30褐色	シルト	V層のブロック（φ50mm内）を少量含む。ブレイビングしている。	
SB121 P5	1 10Y4A-32-41-3黄褐色	粘土質シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	21 10Y4C-30褐色	シルト		
	2 10Y4A-32-41-3黄褐色	粘土質シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	22 10Y4C-32-41-3黄褐色	シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	3 10Y4C-32-41-3黄褐色	シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	23 10Y4C-30褐色	シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	
	4 10Y4C-32-41-3黄褐色	シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	24 10Y4C-30褐色	シルト	灰面と側面に灰化色集積層あり。	

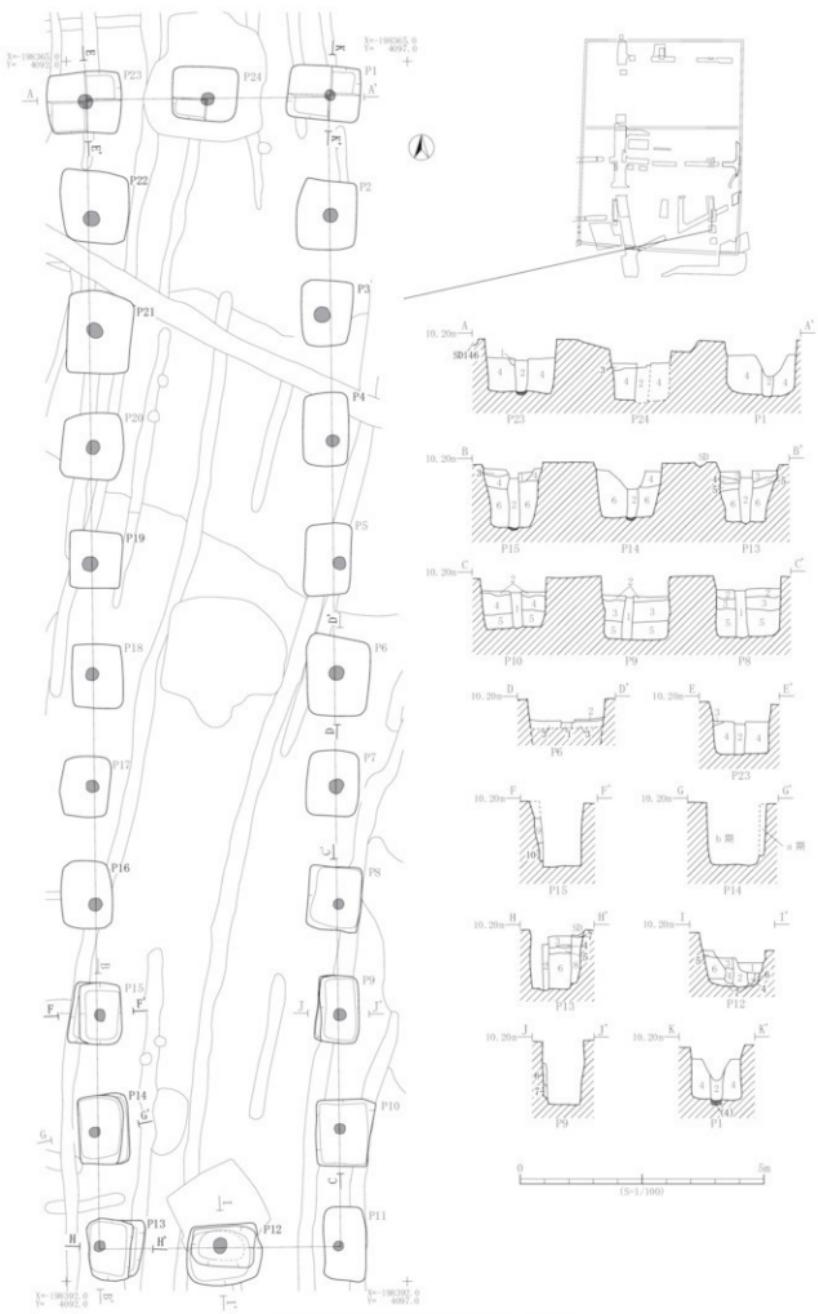
第7図 SB121掘立柱建物跡平面図・断面図

梁行2間の南北棟の純柱建物跡とみられ、建物は南側の調査区外へ延びると考えられる。北妻柱列はプランの確認のみである。建物の規模について、柱痕跡や柱抜き取り痕跡などを手がかりに求めると、桁行現存長6.00m、梁行総長5.70mで、主軸方向はN-0°-Wである。柱間寸法は桁行両柱列（P1-P2-P3、P5-P6-P7）とも3.00m、梁行両柱列とも東から1間目（P1-P8、P3-P4）が2.70m、2間目（P8-P7、P4-P5）が3.00mである。柱穴の柱掘り方の規模は、柱穴の調査を行ったP2～P6・P9では長軸165～192cm、短軸142～182cmで、平面形は概ね方形を呈する。確認面からの深さは87～111cmである。また、各柱穴のプラン確認時には柱の抜き取り痕跡と考えられる不整円形のプランが確認されている。また、柱抜き取り痕跡の底面からは柱のあたりを示す硬化面や凹みが確認されている。追加調査で検出された柱穴P7～9の規模は平面プラン確認のみであるが、長軸155～265cm、短軸120～155cmである。埋土は黄褐色・にぶい黄褐色の砂質シルト、にぶい黄褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色・褐色のシルトである。遺物は、柱穴P2の柱抜き取り痕跡とP5の埋土から、外面ヘラケズリ・内面黒色処理された非クロロの土師器環小片が出土している。また、柱穴P3及びP6からは不明鉄片が、P2・P4・P5からは鉄滓が少量出土している。

SB135掘立柱建物跡（第8図、図版7・8） 大野田古墳群13B区と大野田古墳群第15次調査で、E280～290・N80グリッドの基本層V層で確認された。本建物跡は、桁行10間、梁行2間の南北棟の側柱建物である。また、同位置・同規模での変遷（a期→b期）が認められた。遺構間の重複関係では、SD144溝跡及び小溝状遺構群よりも古く、SR224河川跡よりも新しい。大野田古墳群9A区で検出されたSB464とは東西で対になる建物である。

b期の建物規模は、桁行総長23.55m、梁行総長4.95mで、心々部分の面積は約116.6m²である。主軸方向はN-1°-Wである。柱間寸法は、桁行東側柱列では北から1間目（P1-P2）が2.40m、2間目（P2-P3）が2.10m、3間目（P3-P4）・4間目（P4-P5）が2.55m、5間目（P5-P6）・6間目（P6-P7）が2.25m、7間目（P7-P8）が2.40m、8間目（P8-P9）が2.25m、9間目（P9-P10）が2.40m、10間目（P10-P11）が2.40mである。同様に西側柱列では、北から1間目（P23-P22）・2間目（P22-P21）・3間目（P21-P20）・4間目（P20-P19）が2.40m、5間目（P19-P18）・6間目（P18-P17）が2.25m、7間目（P17-P16）が2.40m、8間目（P16-P15）が2.25m、9間目（P15-P14）・10間目（P14-P13）が2.40mである。梁行柱間寸法は、両妻柱列（P1-P24-P23、P11-P12-P13）とも梁行総長495mを二等分したものと考えられる。柱穴の柱掘り方の規模は、柱穴の調査を行ったP1・P8～P10・P12～P15・P23では、長軸115～167cm、短軸88～140cmで、確認面からの深さは102～135cmである。平面形は概ね長方形もしくは隅丸長方形である。柱痕跡は径22～35cmの円形で、柱痕跡の底面には柱材の圧痕が認められたものもある。埋土はV層を多く含む黒褐色もしくは灰黄褐色の粘土質シルト、均質なV層主体のにぶい黄褐色の砂質・粘土質シルトである。遺物は、柱の切り取り穴から土師器・須恵器の小破片、土製品（輪の羽口）、柱痕跡から繩文土器・土師器小破片、掘り方の埋土から土師器小破片と鉄滓が少量出土している。土師器はすべて非クロロ調整である。

a期の建物に関わる柱穴の柱掘り方は、柱穴P9・P12～P15の5ヶ所で確認された。a・b期ともV層で同時に確認されたが、確認できなかった柱穴も多い。また、b期柱掘り方の下部でa期の柱穴を確認したものもあるが、遺構確認を目的とした今回の調査ではすべての柱穴を確認することはできなかった。建物の規模は、柱穴の位置からb期とほぼ同じであったと思われる。柱掘り方の平面形は、長方形もしくは隅丸長方形を呈するとみられ、b期の柱穴に大半が壊されているが、規模は長軸116～153cm、短軸35cm以上～124cmで、深さは確認面から108～123cmである。埋土はV層を多く含む褐灰色の粘土質シルト、砂質シルトを均質に含む褐灰色・暗灰黄色の粘土質シルト、均質なV層主体のにぶい黄褐色の粘土質シルトである。柱痕跡は確認されなかった。a期の建物から遺物は出土していない。



第8図 SB135振立柱建物跡平面図・断面図

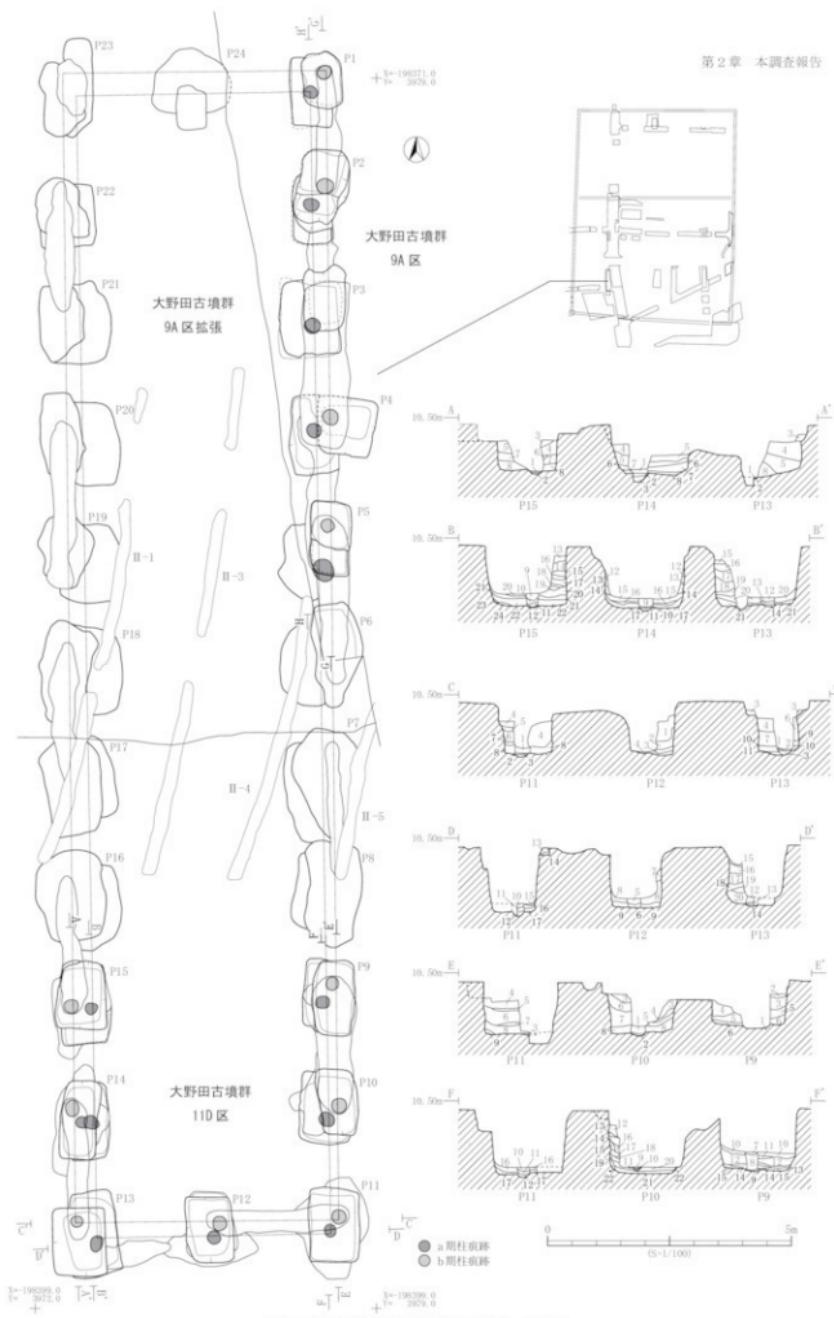
SB135土壤記載

遺構	層	土 色	性 格	備 考
	1	10YR3.2(黒)褐色	粘土質シルト	V層のブロックを含む。(細割り取り穴)
SB135 P1-2	2	10YR4.2(暗)褐色	粘土	V層の小ブロックを少し含む。(細割り取削)
P2-24	3	10YR3.2(黒)褐色	粘土質シルト	V層のブロックを含む。(細割り方理土)
	4	10YR4.3(暗)褐色	粘土質シルト	黒褐色の粘土質シルトを少し含む。(細割り方理土)
	5	10YR4.2(暗)褐色	粘土	V層のブロックを若干含む。(細割り方理土)
SB135 P6	6	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	粘土質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	7	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層の大ブロックを多く含む。(細割り方理土)
	8	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	粘土質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	9	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層のブロックを多く含む。(細割り方理土)
	10	10YR5.2(暗)褐色	粘土質シルト	粘土質シルトを多く含む。(細割り方理土)
SB135 P9-10	11	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	12	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	13	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	14	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	15	10YR5.2(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	16	10YR5.2(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	17	10YR5.1(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
SB135 P12-15	18	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層の黒褐色の粘土質シルトを多く含む。(細割り取り穴)
	19	25YR4.1(暗)褐色	シルト質粘土	粘土質シルトを少し含む。(細割り取削)

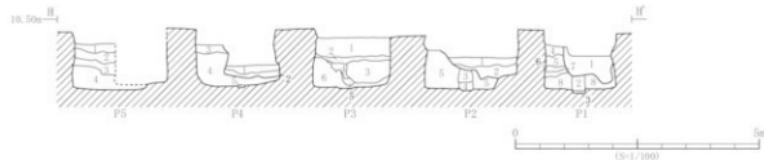
遺構	層	土 色	性 格	備 考
	3	10YR3.2(黒)褐色	粘土質シルト	V層のブロックを多く含む。(細割り方理土)
	4	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層主体。黒褐色粘土質シルトを少し含む。
SB135 P12	5	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層主体。(細割り方理土)
	6	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	粘土質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	7	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層の大ブロックを多く含む。(細割り方理土)
	8	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層主体。黒褐色粘土質シルトを既存にごく少しある。
	9	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	粘土質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	10	10YR5.2(暗)褐色	粘土質シルト	砂質シルトを多く含む。(細割り方理土)
	11	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層のブロックを含む。(細割り取り穴)
	12	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層の少ブロックを多く含む。(細割り取削)
	13	10YR3.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層のブロックを多く含む。(細割り方理土)
	14	10YR4.1(暗)褐色	粘土質シルト	V層のブロックを多く含む。(細割り方理土)
	15	10YR4.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層の少ブロックを多く含む。(細割り方理土)
	16	10YR5.2(暗)褐色	粘土質シルト	V層主体。黒褐色粘土質シルトを少し含む。
	17	10YR5.2(暗)褐色	粘土質シルト	(細割り方理土)

SB464掘立柱建物跡（第9～11図、図版9～11） 大野田古墳群9A区西際のE170・N20～30グリッドに位置する。基本層V層で確認した桁行10間、梁行2間の南北棟の側柱建物である。区画溝の西列南側に位置し、大野田古墳群13B区で確認されたSB135と東西で対になる建物と推定される。また、SB135と同様に建て替えが行われ、同位置・同規模での変遷（a期→b期）が認められた。遺構間の重複関係では、SK475木棺墓よりも本建物跡の方が新しく、小溝状遺構群よりも古い。なお、遺構確認を目的とし、遺構プランの確認のみで終了した部分もある。以下、b期・a期に分けて報告する。

b期の建物は、桁行長23.55m、梁行長5.40mで、心々部分の面積は約127m²である。主軸方向はN-1°-Wである。柱間寸法については、柱痕跡や柱のあたり、あるいは掘り方底面の窪み、柱の抜き取り痕跡などを手がかりに求めると以下のようになる。桁行東側柱では北から1間目（P1-P2）、2間目（P2-P3）、3間目（P3-P4）が2.40m、4間目（P4-P5）、5間目（P5-P6）が2.10m、6間目（P6-P7）、7間目（P7-P8）、8間目（P8-P9）が2.40m、9間目（P9-P10）が2.55m、10間目（P10-P11）が2.40mである。同様に桁行西側柱では北から1間目（P23-P22）、2間目（P22-P21）、3間目（P21-P20）、4間目（P20-P19）、5間目（P19-P18）、6間目（P18-P17）、7間目（P17-P16）、8間目（P16-P15）が2.40mで、9間目（P15-P14）が2.10m、10間目（P14-P13）が2.25mである。梁行柱間寸法は、南妻柱列では東から1間目（P11-P12）が2.40m、2間目（P13-P14）が3.00mで、北妻柱列（P1-P24-P23）では2.70m等間である。また、各柱穴の確認時には、柱の抜き取り痕跡と判断されたプランが認められている。抜き取り痕跡はいずれも対をなして2柱穴間に繋いでいる（P1-P2、P3-P4、P5-P6、P7-P8、P9-P10、P11-P12、P13-P14、P15-P16、P17-P18、P19-P20、P21-P22）。両側柱列でみると、溝状の抜き取り痕跡は互い違いに認められる。柱掘り方の平面形は概ね隅丸方形もしくは隅丸長方形である。柱穴の柱掘り方の規模は、柱穴の調査を行ったP1・P2・P4・P5・P9～P15では長軸126～210cm、短軸105～174cmで、確認面からの深さは95～128cmである。埋土は全体的にV層を多く含む黒褐色、灰黃褐色、褐色の粘土質シルトやV層主体の褐色ないしにぶい黄褐色の砂質・粘土質シルトである。遺物は、遺構のプラン確認時や柱抜き取り痕跡、埋土などから若干出土した。このうち4点を第12図に示した。柱穴P12の須恵器坏、同P2の鉄釘、それに櫛の羽口の小破片が2点である。他にP3出土の土師器小型甕及びプラン確認時に土師器坏や土師器の細破片が出土している。また、柱穴P1～P6の柱抜き取り痕跡から鉄滓が出土し、プラン確認時の資料を加えると出土量は約2.7kgとなる。1は柱穴P12の柱抜き取り痕跡の上層から出土した須恵器坏である。底部及び外周は回転ヘラケズリ後に手持ちヘラケズリで、底面も手持ちヘラケズリしている。胎上に銀雲母を含む茨城県新治窯跡群出土坏の特徴を有している。時期は8世紀後半四半期を前後する頃と考えられる（赤井1997）。2・3は櫛の羽口でいずれも小破片である。2は外面にヘラケズリとヘラナデが施されている。4は柱穴P3から出土した鉄釘で、鋸彫れが著しいが角釘と考えられる。



第9図 SB464掘立柱建物跡平面図・断面図



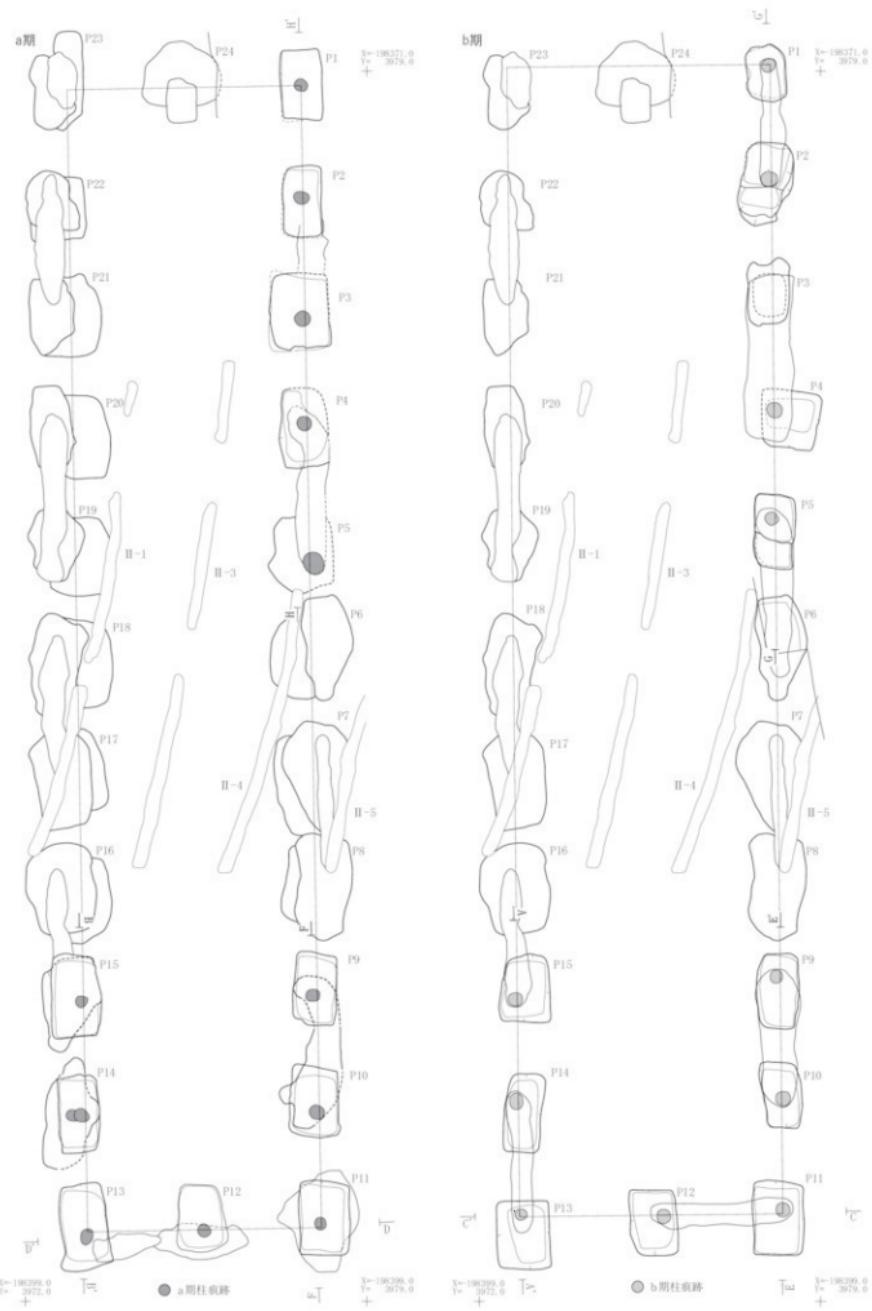
第10図 SB464掘立柱建物跡断面図

SB464土壤記(1)

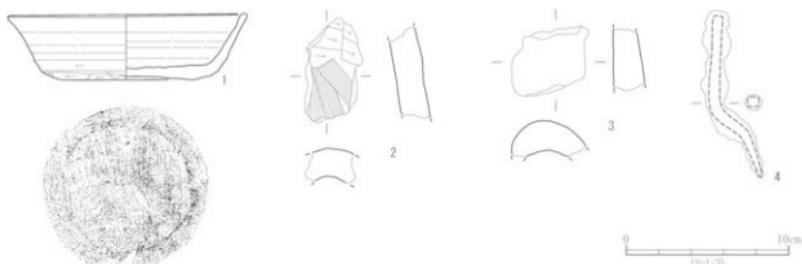
構成	層別	土 色	性	圖 号	道標	層別	土 色	性	圖 号
SB464 P1	1	10YR4/25w黃褐色	シルト質粘土	全体に褐色シルト質粘土のブロック(φ30mm前後)を多く含む。黒褐色粘土のブロック(φ20~30mm)を多量含む。(隣接柱)	7	10YR3-3黒褐色	粘土質シルト	に赤い黒褐色粘土質シルトブロックと褐色粘土質シルトブロックを交互に層状に積む。	P9
	2	10YR3-2黒褐色	粘土	褐色シルト粘土のブロック(φ30mm)をわずかに含む。(柱間隙土)	8	10YR4-6褐色	粘土質シルト	20mm前後の褐色粘土質シルトブロック(φ20~30mm)を多く含む。褐色粘土質シルトブロックを含む。(隣接柱)	
	3	10YR3-3Lw-4w褐色	粘土	黒褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	9	10YR5-29w黃褐色	粘土	全体的にV層のワロタグ(φ10mm以下)を柱間に含む。褐色シルトを含む。褐色粘土を柱間に含む。褐色シルトを柱間に含む。(隣接柱)	
	4	10YR3-2Cw褐色	粘土	全体に褐色粘土質シルトのブロック(φ30~100mm)を含む。(柱間隙土)	10	10YR4-6褐色	粘土質シルト	φ30mm以下の褐色粘土質シルトブロックと、灰褐色粘土質シルトブロックを多く含む。(隣接柱)	
	5	10YR4-25w黃褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ30mm前後)を多量含む。褐色粘土質シルトのブロック(φ20~30mm)を多量含む。(隣接柱)	11	10YR4-6褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土質シルトブロック(φ5mm以下)を少し含む。に赤い黒褐色粘土質シルトブロックを含む。(隣接柱)	
	6	10YR4-4褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ30mm前後)を多量含む。褐色粘土質シルトのブロック(φ20~30mm)を多量含む。(隣接柱)	12	10YR4-6褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ5mm以下)を含む。褐色シルトを柱間に含む。(隣接柱)	
	7	10YR4-4褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ20~30mm)を含む。褐色シルトを柱間に含む。(隣接柱)	13	10YR4-6褐色	粘土質シルト	下部に褐色粘土質シルトの帶が確認できる。	
	8	10YR4-3Lw-4w褐色	砂質シルト	褐色土質シルトのブロック(φ30mm前後)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。褐色土質シルトを柱間に含む。(隣接柱)	14	10YR3-3w黒褐色	シルト	褐色粘土質シルトブロック(φ30mm以下)をやや多く含む。(隣接柱)	
SB464 P2	1	10YR4-25w黃褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ20~50mm)を多量含む。褐色粘土質シルトのブロック(φ10~50mm)を全体的に含む。無機化物をわずかに含む。(隣接柱)	15	10YR3-3w 黃褐色	砂質シルト	に赤い黒褐色粘土質シルトを含む。褐色シルトを含む。(隣接柱)	
	2	10YR4-3Lw-4w褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土のブロック(φ30~300mm)を全般的に含む。褐色粘土質シルトのブロック(φ30~50mm)を多量含む。(隣接柱)	1	10YR3-45w褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土質シルトブロックを多量含む。下部に厚さ5mmの褐色粘土質シルトを含む。(隣接柱)	
	3	10YR3-25w褐色	粘土	黒褐色粘土を柱間に含む。(柱間隙土)	2	10YR4-25w黃褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを多量含む。下部に厚さ5mmの褐色粘土質シルトを含む。(隣接柱)	
	4	10YR4-4Lw-4w褐色	粘土	黒褐色粘土を柱間に含む。無機化物を含む。(隣接柱)	3	10YR3-3w褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ30mm以下)を柱間に含む。灰褐色物(φ30mm以下)を少量含む。(隣接柱)	
	5	10YR4-4褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	4	10YR4-6褐色	粘土質シルト	全般的にV層のブロック(φ30mm以下)を柱間に含む。灰褐色物(φ30mm以下)を少量含む。(隣接柱)	
	6	10YR4-25w黃褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ20~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	5	10YR3-25w褐色	シルト	V層のブロック(φ30mm以下)を柱間に含む。灰褐色物(φ30mm以下)を少量含む。(隣接柱)	
	7	10YR4-4褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	6	10YR3-3w褐色	粘土質シルト	全般的にV層のブロック(φ30mm以下)を柱間に含む。灰褐色物(φ30mm以下)を少量含む。(隣接柱)	
	8	10YR4-3Lw-4w褐色	砂質シルト	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	7	10YR3-3w黒褐色	シルト	全般的にV層のブロック(φ30mm以下)を柱間に含む。灰褐色物(φ30mm以下)を少量含む。褐色土を含む。(隣接柱)	
SB464 P3	1	10YR4-25w黃褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ20~50mm)を多量含む。褐色粘土質シルトのブロック(φ10~50mm)を全体的に含む。無機化物をわずかに含む。(隣接柱)	8	10YR3-3w 黃褐色	砂質シルト	灰褐色粘土質シルトブロックを多量含む。下部に厚さ5mmの褐色粘土質シルトを含む。(隣接柱)	
	2	10YR4-3Lw-4w褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土を柱間に含む。(柱間隙土)	9	10YR5-29w黃褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ5mm以下)を含む。褐色シルト(酸化鉄)を含む。(隣接柱)	
	3	10YR3-25w褐色	粘土	黒褐色粘土を柱間に含む。(柱間隙土)	10	10YR5-29w 黃褐色	シルト	細粒化物(酸化鉄)を含む。(隣接柱)	
	4	10YR4-4Lw-4w褐色	粘土	黒褐色粘土を柱間に含む。(柱間隙土)	11	10YR5-29w 黃褐色	シルト	細粒化物(酸化鉄)を含む。(隣接柱)	
	5	10YR4-4褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~30mm)を多量含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	12	10YR3-25w褐色	シルト質粘土	全般的に褐色粘土質シルトブロック(φ10mm以下)を多量含む。(隣接柱)	
	6	10YR4-25w黃褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ20~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	13	10YR3-3w 黃褐色	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ5mm以下)を少量含む。(隣接柱)	
	7	10YR4-3Lw-4w褐色	砂質シルト	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	14	10YR3-3w 黃褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ5mm以下)を少量含む。(隣接柱)	
	8	10YR4-4褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	15	10YR4-6褐色	粘土	細粒化物(酸化鉄)を含む。(隣接柱)	
SB464 P4	1	10YR3-25w褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	16	10YR3-3w 黃褐色	砂質シルト	細粒化物(酸化鉄)を含む。(隣接柱)	
	2	10YR4-25w黃褐色	粘土	褐色土質シルトのブロック(φ20~50mm)を多量含み。褐色粘土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含む。(隣接柱)	17	10YR3-3w 黃褐色	シルト	10mmより上位では、黒褐色粘土質シルトブロックが少くなり、含有量が少なくなる。(隣接柱)	
	3	10YR3-25w褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ50~100mm)を多量含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	18	10YR3-3w 黃褐色	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ2mm以下)をわずかに含む。(隣接柱)	
	4	10YR4-6褐色	粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	19	10YR3-3w 黃褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ2mm以下)をわずかに含む。灰褐色粘土質シルトを含む。(隣接柱)	
	5	10YR5-29w 黃褐色	粘土	黒褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	20	10YR4-6褐色	粘土質シルト	細粒化物(酸化鉄)を含む。(隣接柱)	
	6	10YR4-6褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトを柱間に含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	21	10YR3-3w 黃褐色	シルト	細粒化物(酸化鉄)を含む。(隣接柱)	
	7	10YR4-25w黃褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	22	10YR3-3Lw-4w褐色	粘土	黒褐色粘土質シルトブロックを含む。(隣接柱)	
	8	10YR4-6褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	1	10YR3-3w 黃褐色	砂質シルト	全般的にV層のブロック(φ20mm以下)を多量含む。全般的にブロックが細かい。(隣接柱)	
SB464 P5	1	10YR3-25w褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	2	10YR4-6褐色	粘土	下層に酸化鉄分を含む。(隣接柱)	
	2	10YR4-6褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	3	10YR3-4褐色	砂質シルト	V層のブロック(φ20mm以下)を多量含む。全般的にブロックが細かい。(隣接柱)	
	3	10YR3-25w褐色	シルト質粘土	褐色土質シルトを柱間に含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	4	10YR3-3w 黃褐色	シルト	褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	
	4	10YR4-6褐色	粘土	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含み。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)	5	10YR3-25w褐色	シルト質粘土	全般的にV層のブロック(φ20mm以下)を多量含む。全般的にブロックが細かい。(隣接柱)	
	6	10YR4-6褐色	シルト質粘土	褐色土質シルト(φ20mm以下)を柱間に含む。(隣接柱)	6	10YR3-3w 黃褐色	シルト	全般的にV層のブロック(φ20mm以下)を多量含む。(隣接柱)	
SB464 P9	1	10YR4-25w黃褐色	粘土質シルト	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)					
	2	10YR4-4褐色	砂質シルト	褐色土質シルトのブロック(φ10~50mm)を多量含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)					
	3	10YR3-25w褐色	粘土質シルト	全般的にV層の大ブロック(φ100mm以上)を堆积する。無機化物(φ100mm以上)を含む。褐色粘土を柱間に含む。(隣接柱)					
	4	10YR3-3w褐色	粘土質シルト	褐色粘土(φ100mm以上)を柱間に含む。(隣接柱)					
	5	7.5YR4-2褐色	粘土質シルト	褐色粘土(φ100mm以上)を柱間に含む。(隣接柱)					
	6	10YR4-6褐色	粘土質シルト	褐色粘土(φ100mm以上)を柱間に含む。(隣接柱)					
SB464 P11	1	10YR3-3w 黃褐色	砂質シルト	褐色粘土シルトブロックを含む。(隣接柱)					
	2	10YR4-6褐色	粘土	下層に酸化鉄分を含む。(隣接柱)					
	3	10YR3-4褐色	砂質シルト	V層のブロック(φ20mm以下)を多量含む。全般的にブロックが細かい。(隣接柱)					
	4	10YR3-3w 黃褐色	粘土質シルト	褐色粘土シルトブロックを含む。(隣接柱)					
	5	10YR3-25w褐色	粘土質シルト	全般的にV層のブロック(φ20mm以下)を多量含む。全般的にブロックが細かい。(隣接柱)					
	6	10YR3-3w 黃褐色	粘土質シルト	全般的にV層のブロック(φ20mm以下)を多量含む。(隣接柱)					

SB464系記録(2)

遺傳	部位	土 色	土 性	備 考
SB464 P11	7	10YR4-4褐色	砂質シルト	V層のブロック(φ30mm以下)が厚く地盤に分布する。 (細開割り方則)
	8	10YR4-4褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	9	10YR4-4褐色	砂質シルト	粘土質粘土質シルトブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	10	10YR3-2深褐色	粘土質シルト	粘土質粘土質シルトブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	11	10YR4-4褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	12	10YR5-2深褐色	粘土	粘土質粘土質シルトブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	13	10YR4-6褐色	砂質シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	14	10YR4-3に深い黒褐色	シルト	V層のブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	15	10YR4-3に深い黒褐色	粘土質シルト	シルトを多く含む。黒褐色粘土質シルトブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	16	10YR4-3に深い黒褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	17	10YR4-3に深い黒褐色	粘土	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
SB464 P14	1	10YR3-3褐色	砂質シルト	V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	2	10YR4-4褐色	シルト質粘土	V層に斑状に含む。 (細開割り方則)
	3	10YR2-2褐色	粘土質シルト	V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	4	10YR3-3褐色	粘土質シルト	粘化物: φ30mm以上。V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	5	75YR4-3褐色	粘土質シルト	V層の小ブロック(φ30mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	6	10YR4-4褐色	シルト質粘土	粘化物: φ10mm以下を斑状に含む。 (細開割り方則)
	7	10YR3-4褐色	シルト質粘土	粘化物: φ10mm以下を斑状に含む。 (細開割り方則)
	8	10YR2-2褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ10~50mm)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
	9	10YR3-2褐色	粘土質シルト	V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
	10	10YR4-4褐色	粘土質シルト	V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
SB464 P12	1	10YR3-3褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	2	7.5YR2-2深褐色	シルト質粘土	1号より1号層のブロックの含む量が低い。炭化物: φ30mm以下を斑状に含む。 (細開割り方則)
	3	10YR3-2深褐色	シルト質粘土	V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
	4	10YR4-4褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	5	10YR3-2深褐色	粘土質シルト	全部的にV層のブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	6	10YR5-2深褐色	粘土	全部的にV層のブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	7	10YR4-3に深い黒褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	8	10YR4-4褐色	シルト	V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
	9	10YR4-4褐色	シルト	に深い黒褐色粘土質シルトを少々含む。 (細開割り方則)
	10	10YR4-2深褐色	粘土質シルト	TDには5cm程度の隕成堆積分を認められる。 (細開割り方則)
SB464 P13	1	10YR4-2深褐色	粘土質シルト	V層の隕成堆積分を認められる。 (細開割り方則)
	2	10YR4-3に深い黒褐色	粘土質シルト	V層の隕成堆積分を認められる。 (細開割り方則)
	3	10YR3-3褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ10mm以下)を斑状にやや多く含む。 (細開割り方則)
	4	10YR3-3褐色	粘土質シルト	V層の小ブロック(φ10mm以下)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
	5	10YR4-4褐色	シルト	に深い黒褐色粘土質シルトを少々含む。 (細開割り方則)
	6	10YR5-2深褐色	粘土	全部的にV層のブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	7	10YR4-3に深い黑褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	8	10YR3-3褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ10mm以下)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
	9	10YR3-3褐色	シルト	全体的にV層のブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	10	7.5YR2-2深褐色	シルト質粘土	1号より2号層のブロックの含む量が低い。炭化物: φ30mm以下を斑状に含む。 (細開割り方則)
SB464 P15	1	10YR3-3褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ10mm以下)を斑状に多く含む。 (細開割り方則)
	2	10YR4-3に深い黒褐色	粘土質シルト	に深い黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	3	10YR3-2褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	4	10YR4-4褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	5	10YR3-3褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	6	10YR3-2褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	7	10YR3-3褐色	シルト質粘土	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	8	10YR3-2褐色	シルト質粘土	V層のブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
	9	10YR3-3に深い黒褐色	粘土質シルト	に深い黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	10	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
SB464 P16	1	10YR3-3褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	2	10YR5-2深褐色	粘土	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	3	10YR3-2褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	4	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	5	10YR3-2褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	6	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	7	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	8	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	9	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	10	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	11	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	12	10YR3-2褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	13	10YR4-4褐色	シルト質粘土	に深い黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	14	10YR5-2深褐色	粘土質シルト	V層のブロック(φ10mm以下)を斑状に含む。 (細開割り方則)
SB464 P17	1	10YR3-3褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	2	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	3	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	4	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	5	10YR3-3褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	6	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	7	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	8	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	9	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)
	10	10YR4-4褐色	シルト	黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。 (細開割り方則)



第11図 SB464振立柱建物跡（a期・b期）平面図



第12図 SB464掘立柱建物跡出土遺物

a期の建物は、b期の建て替え前のものである。同位置に建てられ、規模もほぼ同じくする、桁行10間、梁行2間の南北棟の側柱建物である。桁行長総23.40m、梁行長総4.80mを測り、心々部分の面積は約112m²である。主軸方向はN-0°-Wである。柱間寸法は、柱穴を調査したものについては柱痕跡及び柱のあたりを手がかりに、またプラン確認のみの柱穴については心々間で求めたものを柱間寸法とした。以下に示すと、桁行東側柱列では北から1間目（P1-P2）、2間目（P2-P3）が2.40m、3間目（P3-P4）が2.10m、4間目（P4-P5）が2.85m、5間目（P5-P6）が1.80m、6間目（P6-P7）が2.70m、7間目（P7-P8）が2.10m、8間目（P8-P9）が2.25m、9間目（P9-P10）、10間目（P10-P11）が2.40mである。同様に西側柱列では北から1間目（P23-P22）が2.40m、2間目（P22-P21）が2.25m、3間目（P21-P20）が2.55m、4間目（P20-P19）、5間目（P19-P18）、6間目（P18-P17）が2.25m、7間目（P17-P16）が2.70m、8間目（P16-P15）が2.10m、9間目（P15-P14）が2.25m、10間目（P14-P13）が2.40mである。梁行柱間寸法は、両妻柱列（P1-P24-P23、P11-P12-P13）とも概ね2.40m等間である。柱掘り方の平面形は、b期と同様に隅丸方形もしくは隅丸長方形である。柱穴の柱掘り方の規模は、柱穴の調査を行ったP1～P4・P9・P10・P12～P15では、長軸95～180cm、短軸80～130cmで、確認面からの深さは125～135cmである。埋土はV層を多く含む灰黄褐色やにぶい黄褐色粘土質シルトやV層主体のにぶい黄褐色・灰黄褐色粘土である。遺物はa期からは出土していない。

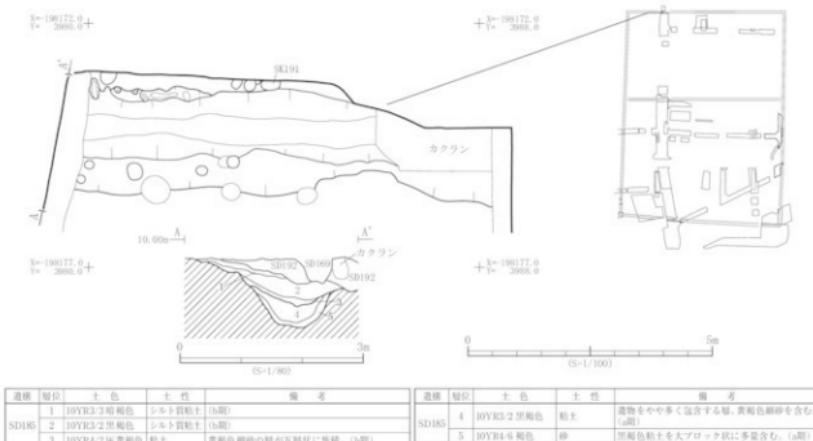
2) 区画溝跡

各調査区で掘立柱建物跡群を方形に囲み、あるいは官衙内をさらに区分けしていると思われる東西方向の区画溝跡が断片的に確認されている。遺構番号は調査区ごとに付したことにより異なるが、内部を区分したと考えられるSD57を除くと、他の溝跡は外郭溝とみられ、官衙を大きく方形に囲む溝と考えられる。ここでは北辺区画溝跡、西辺区画溝跡、南辺区画溝跡、東辺区画溝跡、官衙内区画溝跡に分けて、この順に報告する。

北辺区画溝跡

SD185溝跡（第13図、図版11・12） 六反田遺跡2B区北端のE170～180・N230グリッドに位置し、東西に延びる北辺区画溝跡である。確認面はV層であるが、溝の掘り込み面は基本層のIV層である。遺構間の重複関係では、SK191、SD169・192、P1635～1639よりも古く、東側は擾乱によって削平されている。溝跡の主軸方向はN-88°-Wで、調査区内での検出長は8.50m、幅147～218cm、確認面からの深さは最深部で97cmを測る。掘り直しが行われており、掘り直し前の断面形は概ね逆台形（a期）で、掘り直し後は皿状（b期）である。堆積土は5層に分層され、1～

3層は掘り直し以降の堆積土である。遺物は5点出土し、第14図に図示した。1～4は3層から出土した平瓦片で、1は断面に粘土合せ目、3は側面未調整の状況が確認できる資料である。平瓦は4点とも粘土板桶巻作りであり、時期は8世紀後半四半期以前の所産と考えられる。5は2層から出土した須恵器壺の肩部破片である。



第13図 SD185溝跡平面図・断面図

西辺区画溝跡

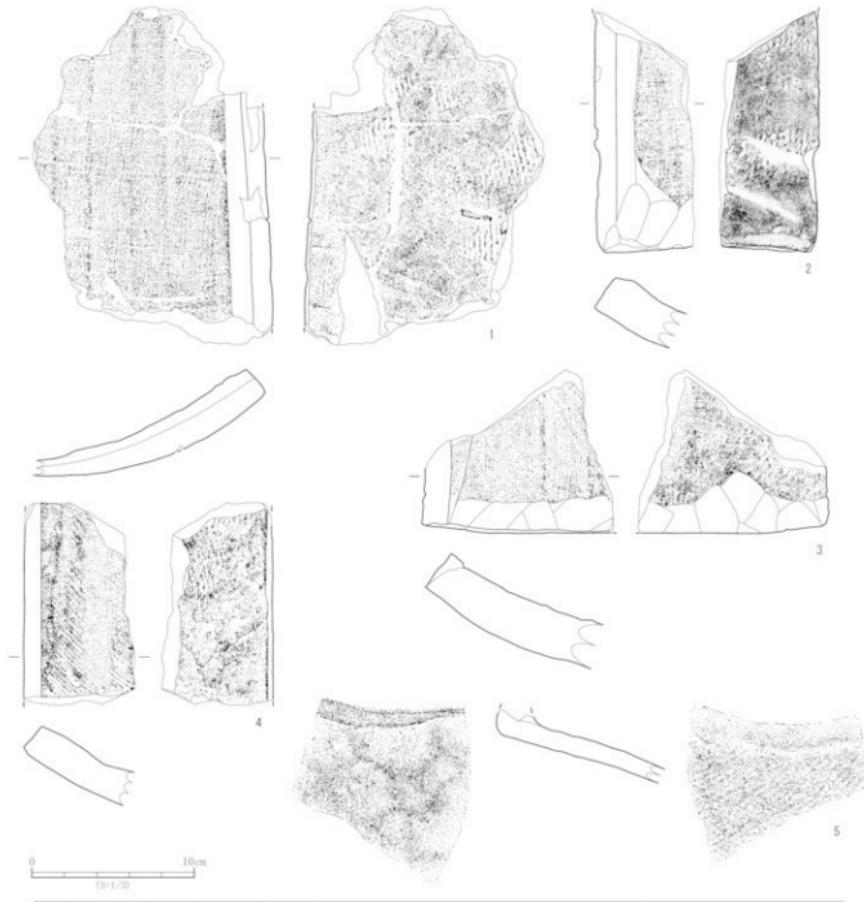
SD 2・6溝跡（第15・16図、図版12・13） 大野田古墳群14B区E130・N10グリッドのV層で検出されたSD 2と、六反田遺跡6 A区のE130～134・N80～90グリッドのV層で検出されたSD 6である。SD 2は本調査区と確認調査のg区北1トレンチ・北2トレンチ・南トレンチの4地点で検出され、南トレンチでは東に折れるコーナー部分を確認した。溝跡の主軸方向はN-2°-Eで、検出長は32.80mである。

SD 2は、土層断面から掘り直しが行われたSD2b（b期）と掘り直し前のSD2a（a期）に分けられる。掘り直し後のSD2bは、幅210～234cm、深さ75～95cmで、断面形は概ねV字形である。掘り直し前のSD2aは、P52・53と重複し、壁面の一部が壊されている。幅は260～275cm、深さ110cm前後、断面形は逆台形である。堆積土は11層に分層され、1～8層がSD2bの堆積土。9～11層がSD2a堆積土である。1～8層は掘り直されている。遺物は出土していない。

SD 6は、SK10、P185・197・201～203と重複関係にあり、本遺構が古い。主軸方向はN-2°-Eで、検出長は5.95m、幅233～253cm、深さは確認面から100cm前後である。SD 6も土層断面から掘り直しが行われ、SD6b（b期）と掘り直し前のSD6a（a期）に分けられる。断面形はb期のものが底面幅の狭い逆台形で、a期のものが底面幅広の逆台形である。堆積土は16層に分層され、1～10層がb期の堆積土。11～16層がa期の堆積土である。遺物は、須恵器及び土師器の小破片が少量出土した。

南辺区画溝跡

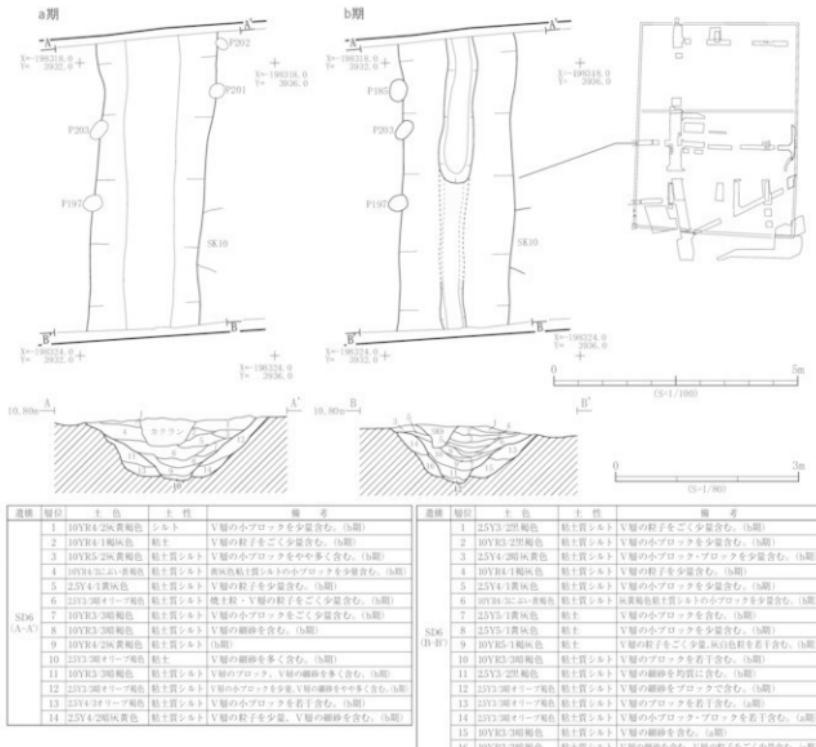
SD 4・73・181・253・421溝跡（第18・19図、図版13・14） 南辺区画溝跡はもっと多くの地点で調査されている。西端から東端のg区南トレンチでは南辺区画溝跡の西隅が確認され、大野田古墳群第14次調査のSD 4、大野田古墳群11D区のSD73、5 A区のSD253、13B区のSD181、8 B区のSD421であり、各区ごとの遺構番号が付されている。なお、SD 4はすでに報告されているため概要のみ示した（平間・佐々木 2009）。



第14図 SD185溝跡出土遺物

SD 4は、E150～180・S20グリッドのV層で検出された。主軸方向はN-84°-Wで、検出長は約31.00m、幅250～330cm、深さは確認面から100cm前後である。断面形は逆台形である。遺物はごくわずかで、いずれも上層から出土しているが溝の時期を示す資料ではない。なお、SD 4も土層断面において掘り直しの痕跡が認められている。断面形はV字形である。

SD73は、E180～190・S20グリッドのV層で検出され、南側の調査区外へ延びる。重複関係は、P512・513・



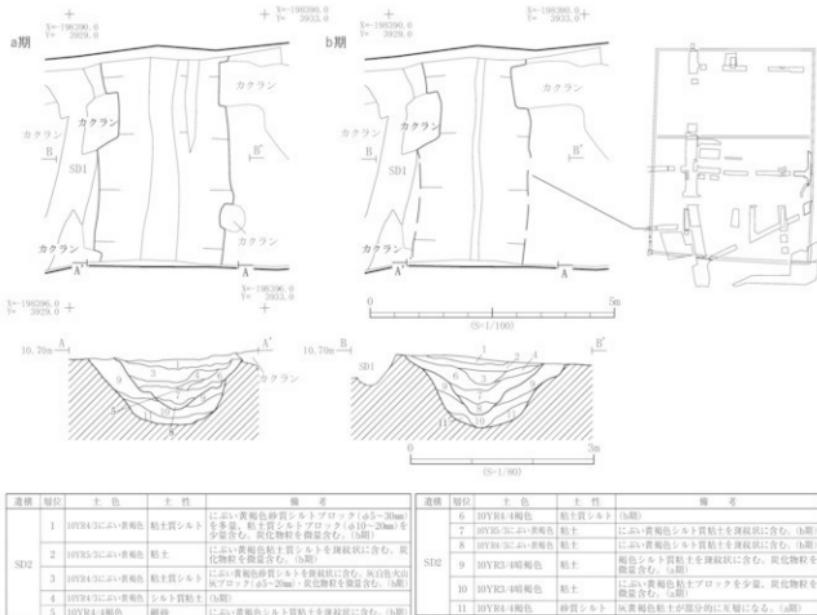
第15図 SD 6溝跡平面図・断面図

516よりも古く、P515よりも新しい。主軸方向はN-84°-Wで、検出長は10.85m、幅は不明であるが、南側で調査された5 A区SD253の調査成果を勘案すると幅は300~330cmと考えられ、深さは確認面から135cmである。堆積土は15層に分層される。断面形は逆台形と推定される。遺物は出土していない。

SD253は、E180~200・S20~30グリッドのIV層で検出され、北側の大半は調査区外となる。小溝状遺構群I-3~13、P3718~3725・3816・3826と重複し、小溝状遺構群I-3~13、P3826よりも新しいが、その他の遺構よりも古い。前述した北側隣接調査区のSD73と一緒にしたもので、検出長は16.85mである。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SD181は、E200~210・S20~30グリッドのV層で検出された。重複関係は小溝状遺構及びピットよりも本溝跡が古い。主軸方向はN-84°-Wで、検出長は9.15m、幅270~320cm、深さは確認面から85~105cmである。土層断面から新旧2時期(a期→b期)が分かり、b期の断面形は底面幅の狭い逆台形、a期は底面幅広の逆台形である。堆積土は18層に分層され、1~11層がb期の堆積土、12~18層がa期の堆積土である。遺物は、須恵器壺の胴部片が出土し、第17図に図示した。

SD421は、E300~320・S30グリッドのV層で検出された。SD419と重複し、本遺構が新しい。南東隅より周溝状の

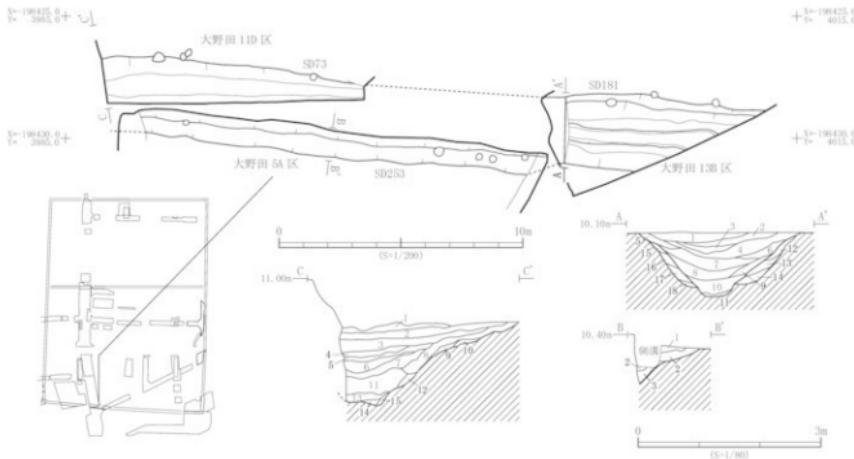


第16図 SD 2溝跡平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	GHD×横径×深さ(cm)	外周調整	内周調整	備考	写真箇所
1	E-4	SD181	2	須恵器	壺	平行タテ穴	青海波文			16-18

第17図 SD 181溝跡出土遺物



遺構	層号	主色	主性	備考	遺構	層号	主色	主性	備考
SD73 (C-C')	1	HOYR6-1褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。	SD73	1	HOYR5-4c-2b-黃褐色	シルト	火山灰の颗粒を含む。
	2	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。褐色火成灰が混入する。	(B-B')	2	HOYR6-3c-2b-黃褐色	粘土質シルト	火垂船跡の層。
	3	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	マンゴー色を有する粘土質シルト。焼化程度を多く含む。		3	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	火垂船跡の層。
	4	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。		4	HOYR5-2b-黃褐色	粘土	火垂船跡の層。
	5	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	4層に順次、高い黄褐色粘土質シルトブロックの有量が少なくなっている。		5	HOYR5-2b-黃褐色	粘土	火垂船跡の層。
	6	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	焼化程度を多く含む。		6	23SY5-1黃褐色	粘土	火垂船跡の層。
	7	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	火垂船跡の層。1層目はホワイトグリーン色粘土質シルトで、2層目は褐色粘土質シルトの混合層。マンガン鉄を少し含む。手探り探査でアーチカルな構造が見られる。		7	HOYR4-1褐色	粘土	火垂船跡の層。
	8	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。		8	HOYR4-1褐色	粘土	火垂船跡の層。
	9	HOYR6-2b-黃褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。		9	HOYR4-2b-黃褐色	粘土	火垂船跡の層。
	10	HOYR4-1褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。		10	23SY5-2黒褐色	粘土	火垂船跡の層。
	11	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。全体が火垂化している。		11	HOYR3-1褐色	粘土	火垂船跡の層。
	12	HOYR5-1褐色	粘土質シルト	海抜高さ粘土質シルトとHOYR5-4cに高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。全体が火垂化している。		12	23SY4-1黒褐色	粘土	火垂船跡の層。
	13	SD81-1褐色	砂質土	全体が火垂化している。焼化程度を多く含む。		13	HOYR4-1褐色	粘土	火垂船跡の層。
	14	SD81-1褐色	砂質土	全体が火垂化している。焼化程度を多く含む。		14	HOYR4-1褐色	粘土	火垂船跡の層。
	15	SD81-1褐色	砂質土	青褐色土とSD81-1褐色に高い黄褐色粘土質シルトブロックの混合層。焼化程度を多く含む。全体に火垂化している。		15	23SY3-1黒褐色	粘土	火垂船跡の層。

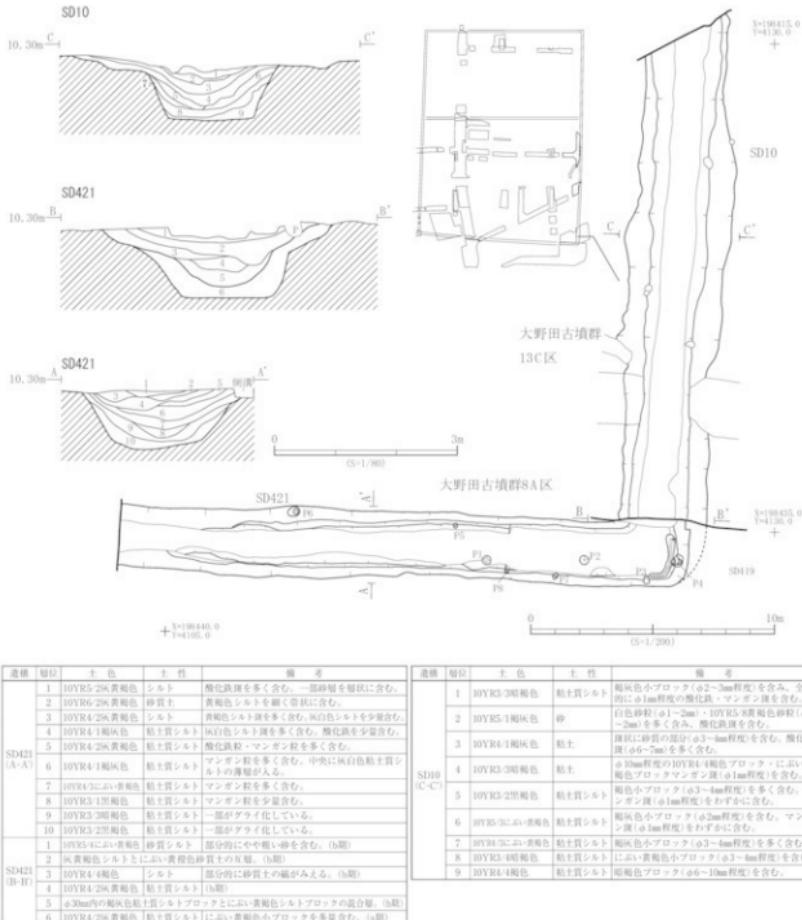
第18図 SD73・181・253溝跡平面図・断面図

施設が検出された。主軸方向はN-87°-Wで、検出長は23.35m、幅245~295cm、深さは確認面から92~113cmである。断面形は逆台形である。堆積土は10層に分層される。遺物は出土していない。

以上の調査成果から南辺区画溝跡は主軸方向が概ねN-84°~87°-Wで、長さは東西長で約195.00m、幅は245~330cm、深さは85~113cmであった。

東辺区画溝跡

SD10溝跡（第19図・図版15） 大野田古墳群13C区のE320・S10~30グリッドV層で検出され、南端は南辺区画溝跡のSD253と接する。重複関係はP252~254・274・275・277・278・312・355~359・417・426・427よりも古い。主軸方向はN-4°-Eで、検出長は21.0m、幅260~420cm、深さは確認面から87~112cmである。新旧2時期（a期→b期）あり、b期の断面形は皿状で、a期の断面形は逆台形で、堆積土は13層に分層される。遺物は、土器部品の底部破片のみで、第20図に図示した。底部は回転糸切りで、外面をロクロナデ、内面はヘラミガキ、黒色処理されている。時期は、9世紀後半以降と考えられる。



第19図 SD10・421溝跡平面図・断面図

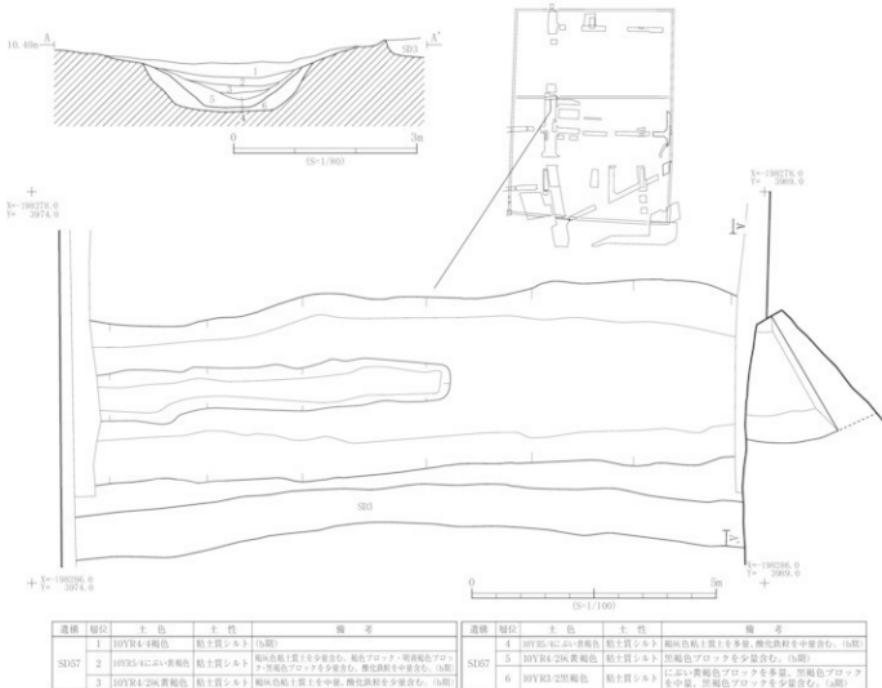


第20図 SD10溝跡出土遺物

No.	登録番号	出土遺物	層位	種別	部 構	寸法(幅×高さ(cm))	外因調整	内因調整	備考	写真図版
1	D-1	SD10	-	土器類	片	1×(6.4)×19.9	ロクロナマ(底盤回転式切引)	ハラミギ、黒色処理		16-9

官衙内区画溝跡

SD57溝跡（第21図・図版15）六反田遺跡5C区のE170～180・S120グリッドのIV層で検出された。大野田官衙内を南北に2分割する東西方向の区画溝と考えられる。重複関係は、P32・33・133・166・170・172・192・193・197～204・207・320・327・329～339・341～349・355・360・365と重複し、これらの遺構よりも古い。主軸方向はN-89°-Eで、検出長は13.30m、幅310～385cm、深さは確認面から80～120cmである。断面形は底面幅広の逆台形で、堆積土は6層に分層される。遺物は、堆積土上層から土師器坏の小破片が出土した。このうち3点を第22図に図示した。いずれもロクロ土師器坏の底部片である。1・3は底部が回転系切りで、内外面ともにロクロナデ調整されている。2は底部が回転系切りで、外面がロクロナデ、内面はヘラミガキ・黒色処理されている。時期は、3点とも9世紀後半以降と考えられる。



第21図 SD57溝跡平面図・断面図



No.	登録番号	出土遺構	層 位	種 别	種 標	L(B) × W(H) × 高さ(cm)	外面調整	内面調整	備 考	写真図版
1	D-2	SD57	1	土師器	环	×(4.8) × 高さ1.7	ロクロナデ、底部回転系切り	ロクロナデ		36-10
2	D-3	SD57	1	土師器	环	×(5.0) × 高さ1.7	ロクロナデ、底部回転系切り	ヘラミガキ・黒色処理	白色剥落部分有り	36-11
3	D-4	SD57	1	土師器	环	×(5.6) × 高さ2.4	ロクロナデ、底部回転系切り	ロクロナデ		36-12

第22図 SD57溝跡出土遺物

3. まとめ

(1) 遺構検出層について

各調査区から大野田官衙として抽出した遺構は、6棟の掘立柱建物跡と、これらを方形に区画した東西南北大溝、さらに内部を区画したと考えられる東西溝からなっている。これら遺構の確認状況は、調査区ごとに異なっていたが、遺構の確認面は基本層のIV・V層である。IV層は暗褐色ないしは黒褐色シルトで、場所により層の堆積状況に差がみられる。V層は各調査区の全体に分布するにぶい黄褐色の砂質シルトで、調査区によっては粘土質シルトの地点もある。また、SB31は削平による影響で基本層のVI層で確認されているが、SB60はIV層からの掘り込みであることが明らかとなっており、他の建物も本来IV層からの掘り込みと考えられる。

一方、区画溝についても建物跡と同様と考えられる。東西南北辺とも遺構の確認面は基本層のV層であるが、北辺溝のSD185ではIV層からの掘り込みであることが認められている。また、官衙内を南北方向に画する東西溝も確認面は基本層のIV層であり、南辺区画溝もIV層とV層からの掘り込みが確認されている。

(2) 建物配置について

これまでの調査で発見された大野田官衙を構成する建物跡は6棟となり、概ね真北を基準として構築されている。これら6棟の建物群は、方形に区画された外郭溝の中に配置されている。建物配置をみると、東列（SB31・121・135）と西列（SB64・464）の建物群に大きく二分され、両者間の南北中軸線上の北側にSB60が配置される。このSB60は東列北端のSB31と南妻列で揃えている。

これらの建物をSD57を境に北側と南側に分けてみると、北側の配置は南北棟の側柱建物SB60を中心として、その東側にSB31が配置されており、その心々間距離は約60.00mである。西側に位置する六反田遺跡2B区で建物は確認されていないが、心々間距離約60.00mを西に振った場合、その位置は六反田遺跡2B区よりわずかに西側になるため、西側未調査部分に建物跡が存在する可能性がある。

一方、南側の建物群は、SB64とSB121が総柱構造の建物で、それらは東西に配置されている。その心々距離は約118mである。さらに各建物の南側同一線上にはSB135とSB464が並んでいる。それらは桁行10間、梁行2間の側柱建物で、郡庁の殿舎に匹敵する規模である。郡山遺跡Ⅱ期官衙の南方官衙東地区検出のSB1306・SB1320・SB1321建物跡と、ほぼ同一規模・構造である点も今後の検討で注意が必要である。

国庫補助事業による遺構確認調査では、SB464とSB135の中間にa区を設けて調査が行われたが南北中軸線上に建物跡は確認されていない。同様にSB64とSB121の中間点（袋前遺跡1A区）においても建物跡は確認されていない。したがって、区画内の南北中軸線上に建物は配置されていなかった可能性が高い。また、大野田官衙遺跡は中央に空閑地を広くとる構造であったと考えられる。

以上をもとに建物全体の配置をみると、建物東列（SB31・SB121・SB135）と建物西列（SB64・SB464）との心々間距離は118.50mで、南北中軸線北端側のSB60北妻柱列と南側のSB464南妻柱列との南北間距離は210.90mである。建物方向は概ね真北を基準としている。

(3) 区画溝について

大野田官衙遺跡の区画溝については、平成21年度の国庫補助事業によるg区の遺構確認調査により区画溝の南西隅が確認されたことで四辺が概ね確定した。その結果、東西・南北間の距離を溝跡の心々間でそれぞれ計測すると、東西間は193.55～194.60m、南北間は248.85～261.80mである。両隅が明らかになった南辺では東西長194.95mとなる。また、東辺では約261.80m、西辺では約248.85m、北辺では193.55mと推定される。南北間を中軸線上で計測すると258.00mとなる。区画溝跡は土壠断面や掘り方の形状により新旧の変遷が明らかとなっているものもあるが、新旧で断面形の違いをみると、最初の断面形は底面幅広の逆台形で、掘り直し後のものは底面幅の狭い逆台形もしくはV字形に変わっている溝が多い。

官衙内区画溝（SD57）は、東西中軸線のやや北側に構築された東西方向に延びる溝跡であるが両端は未確認である。東西間で約192mを測るが、区画溝及び建物との関係は不明である。

（4）遺物について

官衙に關係する掘立柱建物跡及び溝跡から出土した遺物はごくわずかであるが、それでも總点数で50点余りが出土した。そのうち図示し得た遺物は18点である。多くは8世紀前半代までの遺物であるが、区画内を南北に区切るSD57溝跡の上層からは9世紀代の土師器壺が出土している。その中でとくに注目される資料として、SB464建物柱穴P3の柱抜き取り痕跡から出土した土師器壺（第6図1）と、SB464建物柱穴P12の柱抜き取り痕跡から出土した須恵器壺（第12図1）が挙げられる。前者は平底を呈するが、国分寺下層式には認められない形態から、8世紀初頭を下限とし、後者は茨城県新治窯跡出土壺の特徴を有し、時期は8世紀第Ⅱ四半期を前後する頃と考えられる。また、SB464建物柱穴P1～P6の柱抜き取り痕跡からは鉄滓が出土し、遺構プラン確認時の資料を加えると出土量は約2.7kgとなる。鉄滓は、大野田古墳群9A区内の土坑や溝跡、小溝状遺構、ピット、遺構プラン確認時などからも出土しており、その出土量は約46.6kgにも及んでいる。以下、図示し得た遺物を列記しておく。

掘立柱建物跡

SB60建物跡柱穴P5	須恵器長頸壺（8世紀前半頃/湖西窯産）
SB64建物跡柱穴P1	粘土板桶巻作りの平瓦片（8世紀第Ⅱ四半期以前）
SB64建物跡柱穴P2	粘土板桶巻作りの平瓦片（8世紀第Ⅱ四半期以前）
SB64建物跡柱穴P3	土師器壺（～8世紀初頭）
SB464建物跡柱穴P2	鉄釘
SB464建物跡柱穴P12	須恵器壺（8世紀第Ⅱ四半期/新治窯産）
SB464建物跡	輪の羽口片2点

区画溝

東辺区画溝：SD10溝跡	土師器壺（底部回転糸切り／9世紀後半以降）
官衙内区画溝：SD57溝跡上層	土師器壺3点（底部回転糸切り／9世紀後半以降）
南辺区画溝：SD181溝跡	須恵器甕片
北辺区画溝：SD185溝跡	粘土板桶巻作り平瓦片4点（8世紀第Ⅱ四半期以前）

（5）大野田官衙遺跡の時期

希少な資料であるが、SB64建物跡とSB464建物跡の柱抜き取り穴から出土した土師器壺・須恵器壺を判断材料とすれば、大野田官衙遺跡の建物跡は8世紀第Ⅱ四半期には廃絶していたものと考えられる。SB135・SB464建物跡と郡山遺跡Ⅱ期官衙の南方官衙東地区検出のSB1306・SB1320・SB1321建物跡とは、規模がほぼ一致している点も時期を特定する判断材料の一つとなろう。

第1表 道構一覧表

都立柱建物群

道構番号	調査地點	位置(グリッド)	形態	幅員(m)	方向	脚号
SD31	皆前通2 2A区	E280~290・N210	棚行不明×梁行2層	棚行長不明×梁行長4.80	N-0°~W	
SD60	皆前通2 2B区	E220~230・N200~210	棚行5間×梁行2層、櫛柱建物	棚行長12.00×梁行長5.55	N-0°~W	
SD64	六反田通跡 5C区	E170~N70~80	棚行4間×梁行2層、櫛柱建物	棚行長11.40×梁行長5.54	N-1°~W	2期(a・b)
SD121	皆前通跡 3区	E280~290・N80	棚行10間×梁行2層、櫛柱建物	棚行長16.00×梁行長5.70	N-0°~W	
SD135	大野田古墳群 13B区	E280~290・N10~40	棚行10間×梁行2層、櫛柱建物	棚行長23.55×梁行長4.95	N-1°~W	2期(a・b)
SD464	大野田古墳群 9A区	E170~N10~30	棚行10間×梁行2層、櫛柱建物	棚行長23.55×梁行長5.49(5間)	N-0°~W	
				棚行長23.55×梁行長5.49(5間)	N-1°~W	2期(a・b)

溝跡

道構番号	調査地點	位置(グリッド)	溝跡形、断面形	幅員(m)	方向	脚号
SD185	六反田通跡 2B区	E170~180・N220	連合形(5間) 複状(5間)	長さ8.50×幅1.47~2.18×深2.28~0.97	N-08°~W	北辺内(向渕)
SD2	大野田古墳群14B区	E130・N10	連合形(5間) V字形(5間)	長さ32.80×幅2.60~2.75×深5.112~5.801 長さ32.80×幅2.10~2.34×深5.075~0.95(5間)	N-2°~E	西辺内(向渕)
SD6	六反田通跡 6 A区	E130・N80~90	幅広の連合形(5間) 幅広の狭い連合形(5間)	長さ5.95×幅2.33~2.53×深5.100(5間・b期)	N-2°~E	西辺内(向渕)
SD4	大野田古墳群第14B調査	E130~180・S20	連合形	長さ31.00×幅2.50~3.30×深5.100	N-04°~W	南辺内(向渕)
SD181	大野田古墳群 13B区	E200~210・S20~30	幅広の連合形(5間) 幅広の狭い連合形(5間)	長さ9.15×幅2.70~3.20×深3.050~1.05(5間・b期)	N-04°~W	南辺内(向渕)
SD253	大野田古墳群 5 A区	E180~200・S20~30	連合形	長さ16.85×幅3.00~3.20×深5.090	N-04°~W	南辺内(向渕)
SD73	大野田古墳群 11D区	E180~190・S20	連合形	長さ10.85×幅3.00~3.20×深5.180	N-04°~W	南辺内(向渕)
SD421	大野田古墳群 8 A区	E300~320・S30	連合形	長さ23.35×幅2.45~2.95×深5.052~1.13	N-07°~W	南辺内(向渕)
SD10	大野田古墳群 13 C区	E320・S10~30	連合形(5間) 複状(5間)	長さ21.00×幅2.60~4.20×深5.087~1.12	N-4°~E	東辺内(向渕)
SD57	六反田通跡 5C区	E170~180・S120	幅広の連合形	長さ13.30×幅3.10~3.85×深5.080~1.20	N-09°~E	官衙内(向渕)

大野田官衙遺跡写真図版



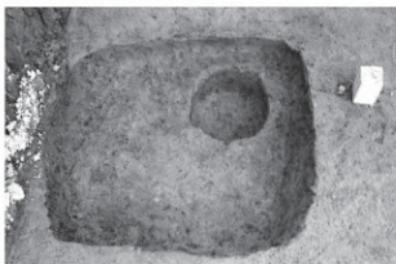
袋前遺跡 2A区SB31全景（南より）



袋前遺跡 2A区SB31P1（東より）



袋前遺跡 2A区SB31P2（東より）

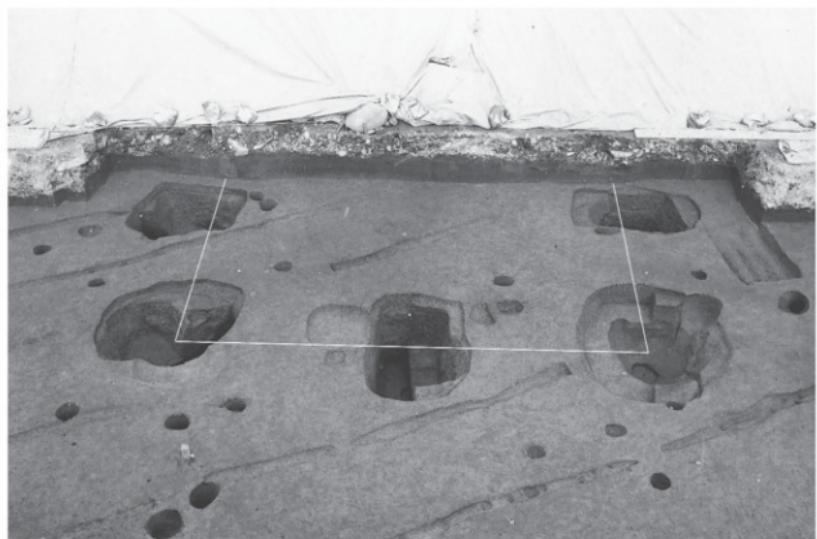


袋前遺跡 2A区SB31P3（西より）

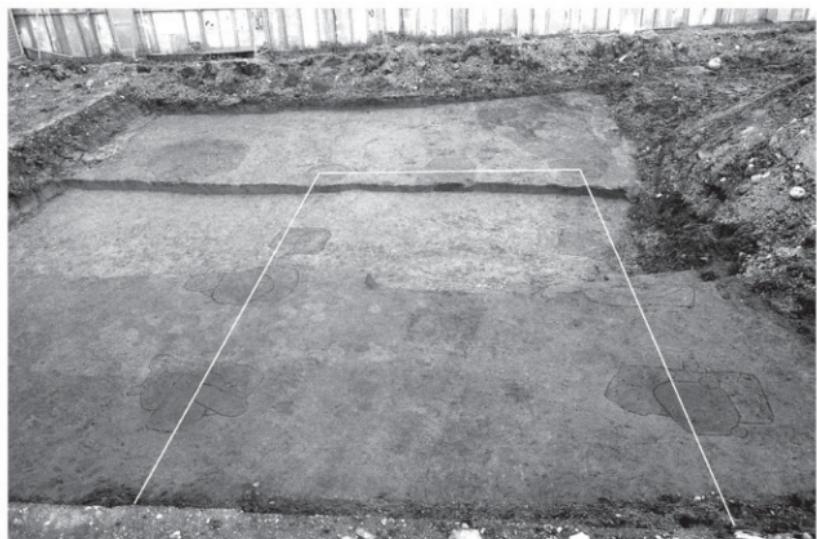


袋前遺跡 2A区SB31P3断面（西より）

写真図版1 大野田官衙遺跡（1）



袋前遺跡 2B区SB60全景（南より）

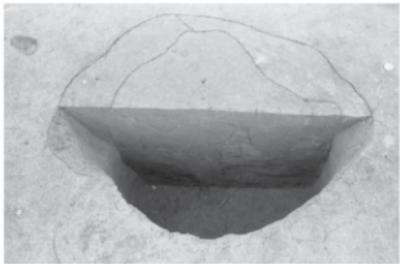


袋前遺跡 2B区SB60拡張区検出（南より）

写真図版2 大野田官衙遺跡（2）



袋前遺跡 2B区SB60P7断面（西より）



袋前遺跡 2B区SB60P8断面（南東より）



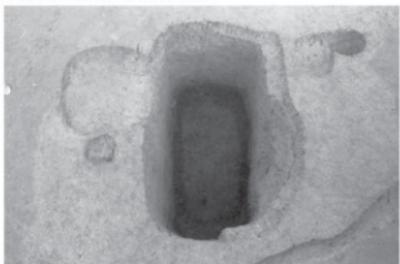
袋前遺跡 2B区SB60P9断面（南より）



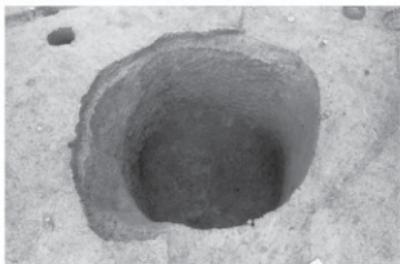
袋前遺跡 2B区SB60P5（南より）



袋前遺跡 2B区SB60P6（南より）



袋前遺跡 2B区SB60P7（南より）



袋前遺跡 2B区SB60P8（南より）



袋前遺跡 2B区SB60P9（南より）

写真図版 3 大野田官衙跡（3）



六反田遺跡SB64全景（北より）



六反田遺跡SB64柱抜き取り痕跡全景（北より）

写真図版 4 大野田官衙遺跡（4）



六反田遺跡SB64P1柱圧痕状況（南より）



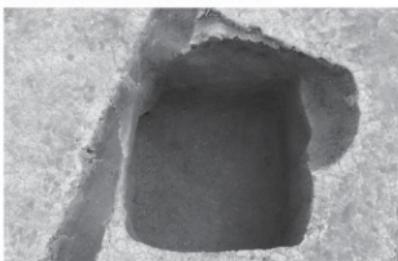
六反田遺跡SB64P3断面（東より）



六反田遺跡SB64P3遺物出土状況（北より）



六反田遺跡SB64P3掘り方断面（東より）



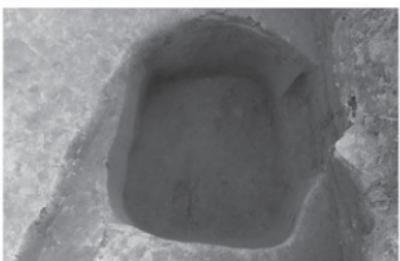
六反田遺跡SB64P3掘り方



六反田遺跡SB64P12柱圧痕状況（東より）



六反田遺跡SB64P12掘り方断面（東より）

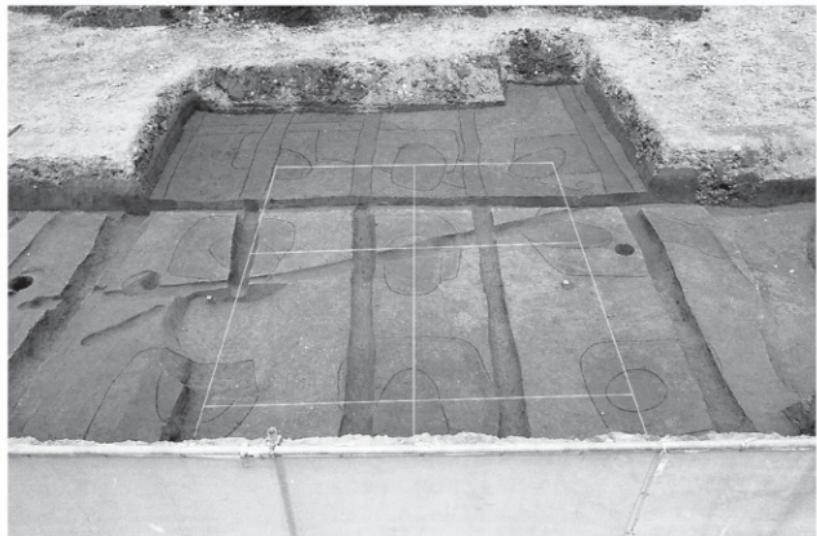


六反田遺跡SB64P12掘り方（北より）

写真図版 5 大野田官衙遺跡（5）



袋前遺跡 3区SB121全景（北より）



袋前遺跡 3区SB121検出状況（南より）

写真図版 6 大野田官衙遺跡（6）



袋前遺跡 3区SB121柱抜き取り痕跡全景（北より）



袋前遺跡 3区SB121 P4断面（南より）



袋前遺跡 3区SB121 P5断面（北より）



袋前遺跡 3区SB121 P6断面（南より）



袋前遺跡 3区SB121 P3掘り方（南より）



袋前遺跡 3区SB121 P5掘り方（南より）



大野田古墳群13B区SB135検出状況（南より）



大野田古墳群13B区SB135P9断面（東より）

写真図版 7 大野田官衙遺跡（7）



大野田古墳群13B区SB135全景（南西より）



大野田古墳群13B区SB135P10断面（東より）



大野田古墳群13B区SB135P23断面（東より）

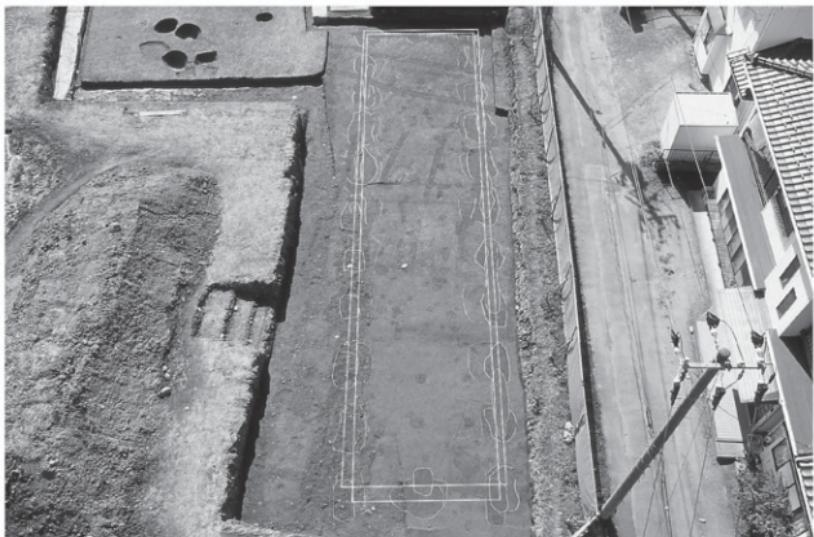


大野田古墳群13B区SB135P9（東より）

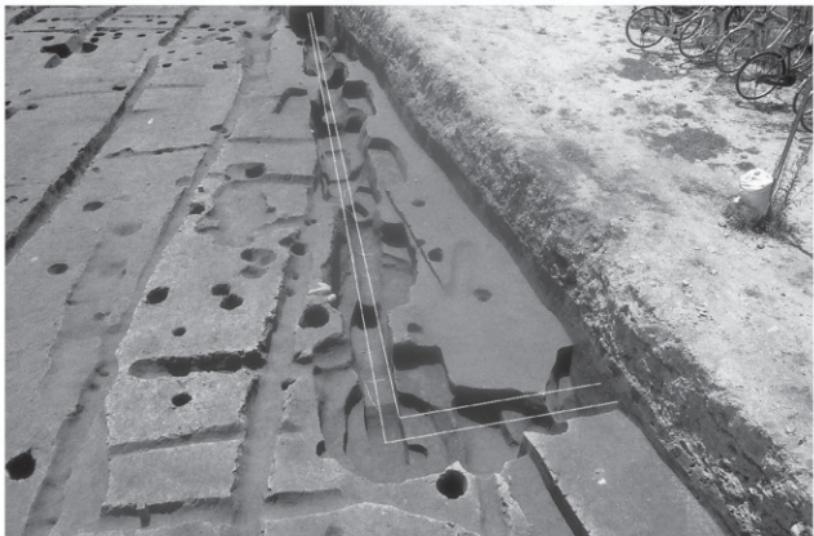


大野田古墳群13B区SB135P1（東より）

写真図版8 大野田官衙遺跡（8）

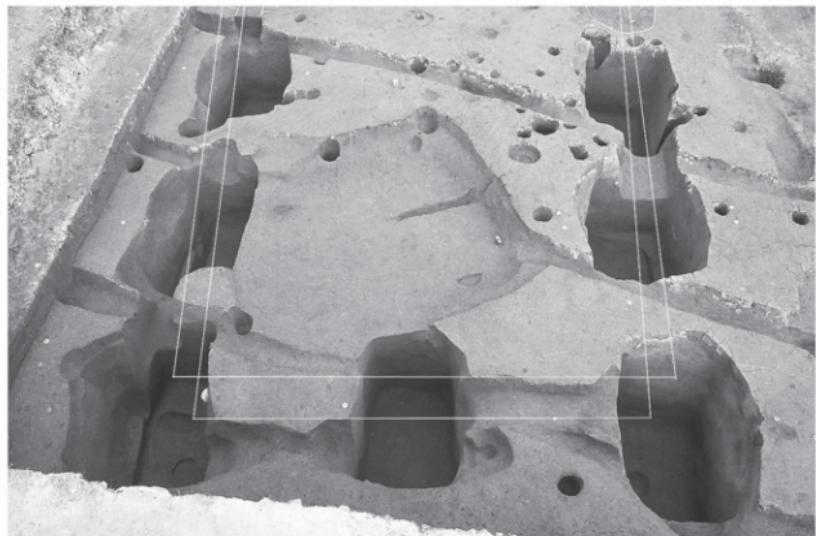


大野田古墳群11D区SB464検出状況（北より）



大野田古墳群9A区SB464全景（北より）

写真図版9 大野田官衙遺跡（9）



大野田古墳群11D区SB464全景（南より）



大野田古墳群 9A区SB464P1断面（東より）



大野田古墳群 9A区SB464P3断面（東より）



大野田古墳群11D区SB464P12遺物出土状況（南より）



大野田古墳群11D区SB464P13断面（北より）

写真図版10 大野田官衙遺跡（10）



大野田古墳群 9A区SB464P1（西より）



大野田古墳群 9A区SB464P3（西より）



大野田古墳群11D区SB464P12b期（北より）



大野田古墳群11D区SB464P13b期（南より）



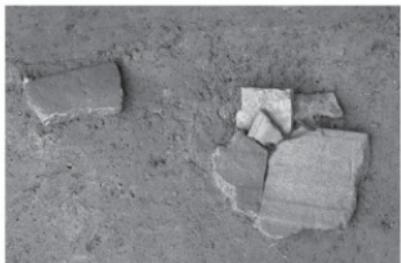
六反田遺跡 2B区SD185全景（東より）

写真図版11 大野田古墳群（11）

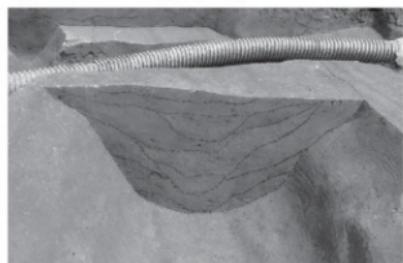
第8節 大野田官衙遺跡



六反田遺跡 2B区SD185断面（東より）



六反田遺跡 2B区SD185遺物出土状況（東より）



大野田古墳群14B区SD 2断面（南より）



六反田遺跡 6A区SD 6断面（北より）

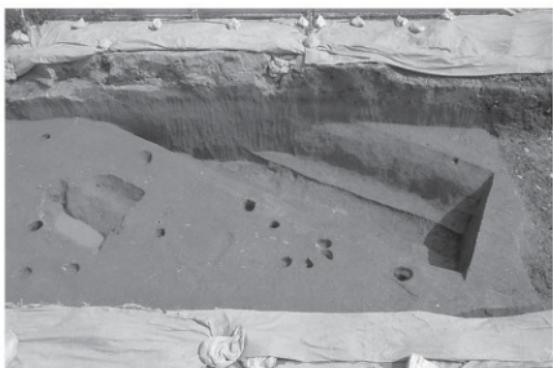


大野田古墳群14B区SD 2（a期）全景（南より）

写真団版12 大野田官衙遺跡（12）



六反田遺跡 6A区SD6全景（南より）



大野田古墳群13B区SD181（a期）
全景（北より）



大野田古墳群 5A区SD253全景（西より）

写真図版13 大野田官衙遺跡（13）

第8節 大野田古墳群



大野田古墳群13B区SD181断面（東より）



大野田古墳群11D区SD73断面（東より）



大野田古墳群 8A区SD421全景（西より）



大野田古墳群 8A区SD421東隅（北西より）



大野田古墳群 8A区SD421断面（東より）

写真図版14 大野田古墳群（14）



大野田古墳群13C区SD10全景（南より）



大野田古墳群13C区SD10断面（南より）

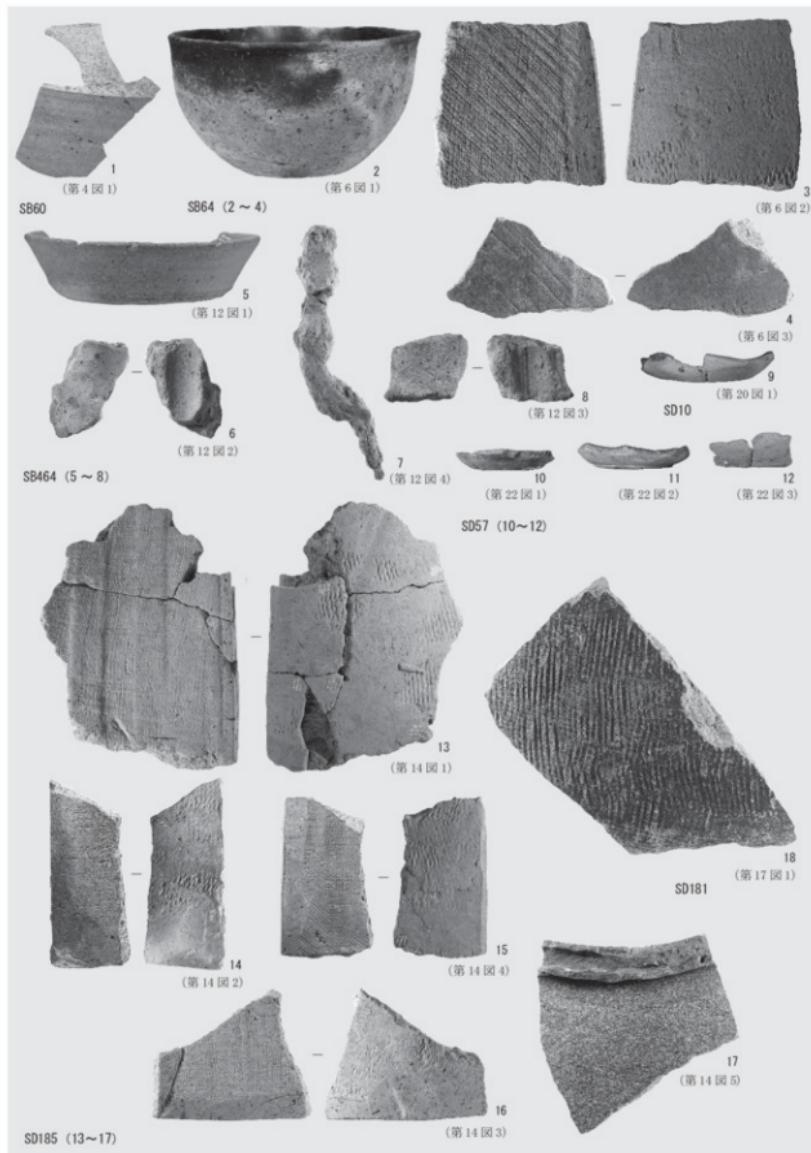


六反田遺跡 5C区SD57断面（西より）



六反田遺跡 5C区SD57（a期）全景（東より）

写真団版15 大野田官衙遺跡（15）



写真図版 16 大野田官衙遺跡遺物

第3章 総括

第2章の各節で、遺跡・調査区ごとに発見遺構・出土遺物について報告したので、ここでは、この報告全体を一體としたとりまとめをしたい。

(1) 水田跡は、土地区画整理地内の周辺部でみつかっている。西端に当たる下ノ内遺跡1C区においては、IV層で擬似畦畔が検出されたが、標高約12mのⅢ層に当たるところが水田と考えられる状況であった。また南端に当たる伊古HIB遺跡1A区の標高11mのⅢ層からも畦畔がみつかっている。袋前・大野田古墳群北東域・王ノ塚古墳のⅢ層が9.5m~10.5mの標高であることと比較しても、低いところに配置されたわけではなく、むしろ全調査区の縁辺部でみつかっていることより、位置関係が水田の立地に関係したと考えられる。

(2) 畑耕作痕と考えられている小溝状遺構群は全遺跡の調査区から検出されている。詳細にみると、V層からは下ノ内遺跡1C・4A・5A・5B区と大野田古墳群5A・6A-C区を除く調査区から検出された。下ノ内遺跡1B区はIV・V層検出である。なお、下ノ内1C区の小溝はV層からの掘り込みであるが、VI層で検出したものである。掘立柱建物跡や堅穴住居跡などの主な遺構との新旧関係をみると、ほとんどがそれより新しいものであるが、袋前遺跡2B区のSB60掘立柱建物跡(大野田官衙遺跡遺構)周辺と下ノ内遺跡1B区のSI51堅穴住居跡(5世紀後半~6世紀初頭)周辺では古いものがみられる。

一方Ⅲ層で検出されたのは、大野田古墳群8区だけであった。

(3) 堅穴住居跡のうち縄文時代のものは、下ノ内遺跡1B区XI層・2C区XII層で大木10式土器を出土する縄文中期末葉の3軒が発見されている。そのうちVII層で検出されたSI227は敷石住居である。

4世紀末から5世紀初頭の古墳時代前期と考えられる堅穴住居跡は、大野田古墳群7区IV層検出のSI380と下ノ内遺跡4A区V層検出のSI356である。古墳時代中期の5世紀前半と思われる住居跡は大野田古墳群7区IV層のSI384、袋前遺跡3区V層のSI136、5世紀中葉から末に位置づけられるのは下ノ内遺跡1B区V・VI層検出のSI51とSI52である。大野田古墳群7区のSI366はSI380・384と同じくIV層検出であるが、時期を示す遺物の出土がなく、不明である。

古墳時代末期の7世紀末から8世紀初頭と考えられる住居跡には、下ノ内遺跡2C区V層検出のSI208・209・210の3軒がある。

それに続く奈良時代のものと考えられるものは、下ノ内遺跡1B区V・VI層のSI46と4B区のSI398がある。

平安時代の堅穴住居跡としては、9世紀前半の下ノ内遺跡1C区V層からの掘り込みであるが、VI層で検出したSI144がある。同遺跡2C区VI層ではSI212も検出されているが、年代を示す遺物はない。9世紀後半に該当するものには下ノ内遺跡4A区III層のSI357・358・370・390がある。このうちSI357は9世紀末に、SI370は10世紀前半までの幅を考えている。同遺跡3A区III層検出のSI337からは遺物の出土がなく、時期不明である。

今回報告したものは堅穴住居跡が以上のように22軒あるが、縄文時代のものは下ノ内遺跡だけで検出され、古墳時代の前期・中期のものは大野田古墳群7区で、その他の多くは下ノ内遺跡で検出されたものである。全遺跡の調査区から判断すると、西側の地域が居住域とされたものと概観される。

(4) この地区的木棺墓は、これまで六反田遺跡(五反田木棺墓)と大野田古墳群3M区(大野田1号木棺墓)で発見されている。

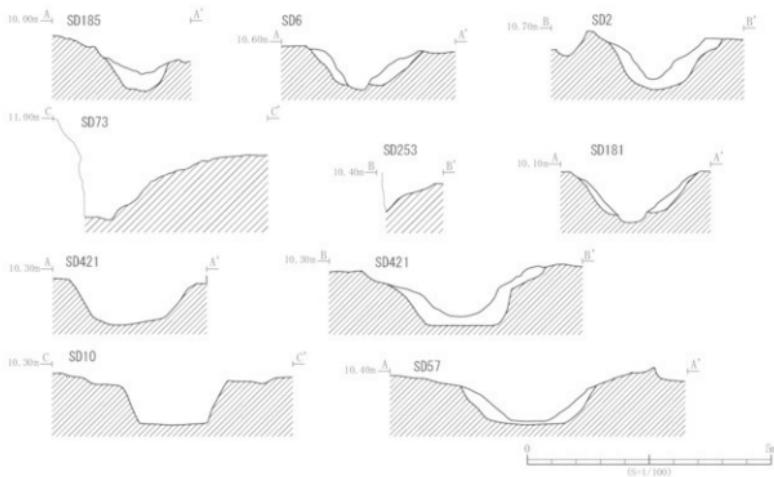
今回報告した木棺墓は、大野田古墳群9A区で、2基が並んだ状況で検出されたSK446とSK475である。SK475が一回り大きく、SK446は壁面に袋状の掘り込みを有している。この「袋状掘り込み」と呼ばれる小穴は、北海道、東北地方の北半部で確認されており、県内では加美町(旧宮崎町)米泉館跡で発見されている。そのため、この検出は南限の確認例となった。またSK446の時期は、袋状掘り込み出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

(5) 今回報告した古墳は円墳が4基で、大野田古墳群12D区内の春日社古墳、大野田古墳群7・9B区に跨る大野田28号墳、大野田古墳群8A区で検出された大野田29号墳、そして王ノ壇古墳である。土地区画整理事業地の範囲でみると、中央部付近と東端に当たる。これまでの発見地域を概観すると、大野田古墳群の中央部から東側、そして北側の六反田遺跡の方に分布するようみられる。4基とも年代的には5世紀後葉から6世紀前葉のものと考えられ、特に春日社古墳からは東北地方で初めて革盾が出土した。

(6) 大野田官衙遺跡で遺構が確認されたのは基本層のIV層とV層である。区画溝跡では北辺を区画するSD185、中央を区画するSD57、南側外郭溝をなすSD253、SD421がIV層で確認されている。掘立柱建物跡では、北側中央のSB60、中央東側のSB121がIV層で確認された。北側東に位置するSB31については搅乱のため、検出面は深い。

これらV層検出のものも含め、本来的にはIV層上面で掘り込まれた遺構と考えられ、IV層が非常に薄かったり、搅乱・削平などの影響により、結果的にV層で検出することになったものが混在したものとみられる。

ただ、同じ南側外郭溝をなすg区南トレンチの検出面、大野田古墳群第14次調査のSD4、大野田古墳群11D区のSD273、同5A区のSD253、同13B区のSD181、同8A区のSD421と、そこから北側に折れて延びる同13C区SD10は、同遺構で隣接・接近しているに係わらず、その検出層に違いがみられ、溝の堆積土も含めて今後の検討課題である。



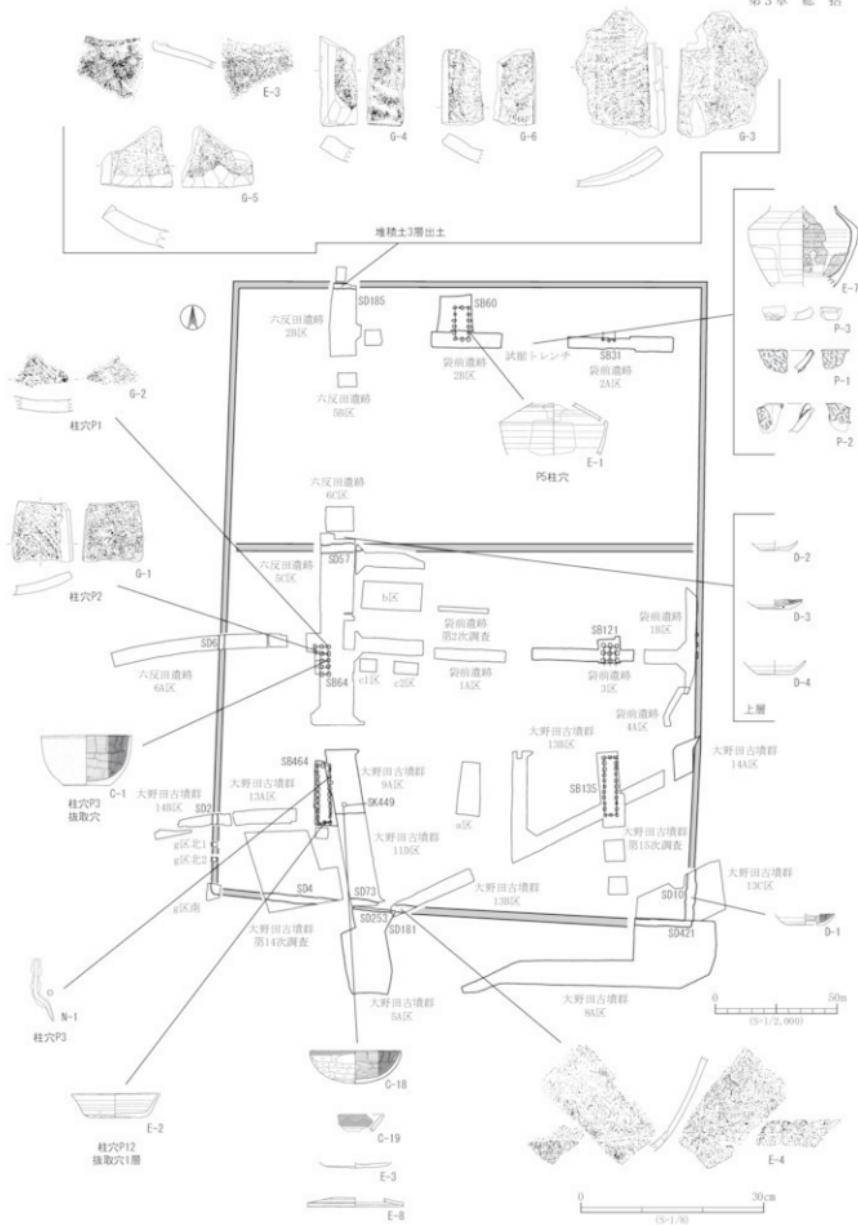
第1図 区画溝断面図

(7) 大野田官衙遺跡内で、官衙遺構と同時期ないしは前後する時期の遺構・遺物と考えられるものを挙げてみたい。

①平成3年度に袋前遺跡2B区を含む地区で試掘調査を行った。その際、土器片の他に、縁羽口片、鉄滓多数、内面に漆が付着した須恵器の壺片、とりべ片数点が出土した。周辺に鍛冶遺構の存在が考えられる。

②平成13年度に調査した袋前2B区検出のSD83溝跡は、SB60掘立柱建物跡の東側約6mの位置にある幅約1mの南北溝で、官衙城を区画する溝の可能性も指摘される。

③平成16年度に行った大野田古墳群9A区の調査で、SK449・455土坑から縁の羽口片や鉄滓が多量に出土した。この鉄滓は周辺の小溝状遺構群やSB464の柱抜き取り穴、そしてSB464の東側に位置するSB135の柱抜き取り穴からも出土している。①同様、周辺に鍛冶遺構の存在が考えられる。



第2図 官衙遺構等出土遺物図

(8) 袋前遺跡、大野田古墳群9A区、六反田遺跡5C区などの調査から、大野田官衙跡の区画溝内における遺構群の変遷は、掘立柱建物跡（SB64・SB464など）→鍛冶関連遺構（SK449・SK455）→小溝状遺構群と考えられる。第2章第5節で述べたように、SK449土坑の時期は8世紀初頭以降に位置づけられ、それに先行する掘立柱建物跡の廃絶時期は、SB64掘立柱建物跡抜き取り穴出土土師器壺（第6図1・C-1）が8世紀初頭を下限とし、SB464抜き取り穴出土須恵器壺（第12図1・E-2）が8世紀第Ⅱ四半期前後であることから、8世紀初頭と考えられた。しかし、一方で從来この2点の土器には中葉も含む8世紀前半の年代が与えられており、官衙廃絶時期の下限を8世紀中葉とする考えもあり（仙台市教育委員会 2009）、廃絶時期については、今後の出土遺物の増加を待つての検討課題である。

また、官衙に後続する鍛冶関連遺構の展開は、周辺で、羽口・とりべなどの鍛冶関連遺物が出土している郡山遺跡、久ノ上Ⅱ遺跡、中田南遺跡などを含め、多賀城創建あるいは国分寺・国分尼寺建立とも関わる地域支配の一連の動きと理解して、注目していく必要がある。

(9) 近世については、下ノ内遺跡の1B区Ⅲ層上面で検出されたSD6・8・10が、出土遺物から19世紀前半代の遺構と考えられる。各溝跡とSB47掘立柱建物跡との配置状態から、1B区Ⅲ層上面の遺構群は近世後期の集落跡とみて良いと思われる。また、下ノ内遺跡3A区ではSK300から初期伊万里皿や、SD296やピット群からは瀬戸・美濃系陶器の志野皿等が出土し、1B区よりも古い近世前期17世紀前半から中葉の様相がみられる。

大野田古墳群7区Ⅳ層検出のSB382のP1・13からは埋納したような状態で、見込みに「小麦」「小豆」と墨書きされた近世かわらけが出土している。またSK378・381からは複数の寛永通宝が出土しており、六道銭を作う墓壙と思われる。新寛永通宝を作うことから、近世中期18世紀以降の墓壙であろう。これらの遺構はⅣ層検出であるが、本来はⅢ層から掘り込まれた遺構と考えられる。

引用・参考文献

- 青木あかね 2003 「古墳時代出土革盾の構造とその変遷」『古文化談叢』49 九州古文化研究会
- 赤井 博之 1997 「茨城県の須恵器編年」『東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜は』古代生産史研究会
- 吾妻 俊典 2003 「陸奥南部におけるカマド出現期の土器」『宮城考古学』5 宮城県考古学会
- 阿部 朝衛 1986 「縄文時代の綱長削片生産技術」法政史学第38号 法政大学史学会
- 荒井 格 2008 「大野田古墳群他－官衙関連遺構－」『第34回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
- 石井 浩幸 1996 「寒河江市柴橋遺跡出土の石器接合資料」西村の歴史と文化Ⅲ 西村山地歴史研究会
- 氏家 和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯
- 白杵 熊 1985 「古墳時代後期鉄矛の分類と編年」『日本古代文化研究』2 日本古代文化研究会
- 大川 清・鈴木 公雄・工藤 善通 1997 「日本土器事典」雄山閣
- 小笠原好彦 1976 「東北地方における平安時代の土器についての二三の問題」『東北考古学の諸問題』東北考古学会
- 川井 正 1993 「常陸国における古代窯業遺跡－新治窯跡を中心として－」『茨城県立歴史館報』第20集
- 桑原 滋郎 1969 「ロクロ土師器環について」『歴史』第39輯
- 小林 行雄 1962 「革の盾」『古代の技術』塙書房
- 小林達雄編 2009 「総覧 縄文土器」「総覧 繩文土器」刊行委員会
- 古窯跡研究会 1974 「富沢窯跡仙台三神峯丘陵所在埴輪窯跡調査報告」「研究報告」3
- 甲陽史学会 1986 「常陸國新治郡上代遺跡の研究Ⅱ」
- 佐藤 敏幸 2006 「東北地方における7世紀から8世紀前半の土器研究史」『宮城考古学第8号』宮城県考古学会
- 寒河江市教育委員会 1987 「柴橋遺跡発掘調査報告書」
- 白鳥 良一 1980 「多賀城出土土器の変遷」『研究紀要Ⅵ』宮城県多賀城跡調査研究所
- 杉山 秀宏 1988 「古墳時代の鉄鎌について」『櫻原考古学研究所論集』8
- 仙台市 1995 「仙台市史」特別編2 考古資料 仙台市史編さん委員会
- 仙台市教育委員会 1974 「愛宕山横穴墓群発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第8集
- 仙台市教育委員会 1984 「伊古田遺跡」『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第69集
- 仙台市教育委員会 2010 「一本杉遺跡第2次調査」仙台市文化財調査報告書第369集
- 仙台市教育委員会 1974 「裏町古墳発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第7集
- 仙台市教育委員会 2010 「上野遺跡 第6・7次発掘調査－都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第365集
- 仙台市教育委員会 2000 「王ノ塙遺跡－都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡－発掘調査報告書Ⅰ」仙台市文化財調査報告書第249集
- 仙台市教育委員会 1994 「大野田遺跡発掘調査報告書」「年報」仙台市文化財調査報告書第189集
- 仙台市教育委員会 2009 「(仮称) 大野田官衙遺跡」『第35回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
- 仙台市教育委員会 1987 「春日社古墳・鳥居塚古墳発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第108集
- 仙台市教育委員会 2004 「鴻ノ巣遺跡第7次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第280集
- 仙台市教育委員会 1992 「郡山遺跡 第65次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第156集
- 仙台市教育委員会 2005 「郡山遺跡発掘調査報告書－総括編－」仙台市文化財調査報告書第283集
- 仙台市教育委員会 2009 「郡山遺跡29」仙台市文化財調査報告書第347集

- 仙台市教育委員会 2010 「郡山遺跡30」仙台市文化財調査報告書第373集
- 仙台市教育委員会 1987 「史跡遠見塚古墳保存修理事業報告書」
- 仙台市教育委員会 1983 「下ノ内浦遺跡」仙台市文化財調査報告書第59集
- 仙台市教育委員会 1988 「下ノ内浦遺跡」仙台市文化財調査報告書第115集
- 仙台市教育委員会 1993 「下ノ内浦遺跡－第4次発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第173集
- 仙台市教育委員会 1990 「下ノ内浦遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ」仙台市文化財調査報告書第136集
- 仙台市教育委員会 1996 「下ノ内浦・山口遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書V－」仙台市文化財調査報告書第207集
- 仙台市教育委員会 1985 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ」仙台市文化財調査報告書第82集
- 仙台市教育委員会 1991 「仙台平野の遺跡群X」仙台市文化財調査報告書第147集
- 仙台市教育委員会 1993 「仙台平野の遺跡群XII」仙台市文化財調査報告書第170集
- 仙台市教育委員会 1976 「宗禅寺横穴墓群発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第9集
- 仙台市教育委員会 1989 「宗禅寺横穴墓群－発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第130集
- 仙台市教育委員会 1992 「土手内遺跡発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第165集
- 仙台市教育委員会 1984 「富沢水田遺跡1」仙台市文化財調査報告書第67集
- 仙台市教育委員会 1987 「富沢遺跡」仙台市文化財調査報告書第104集
- 仙台市教育委員会 1988 「富沢遺跡 24次調査 富沢中学校地区」仙台市文化財調査報告書第113集
- 仙台市教育委員会 1988 「富沢遺跡－第28次発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第114集
- 仙台市教育委員会 1988 「富沢遺跡－第33次発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第117集
- 仙台市教育委員会 1988 「富沢遺跡－第34次調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第118集
- 仙台市教育委員会 1989 「富沢遺跡・泉崎浦遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書I－」仙台市文化財調査報告書第126集
- 仙台市教育委員会 1989 「富沢・泉崎浦・山口遺跡－富沢遺跡第36～48次・泉崎浦遺跡第4次・山口遺跡第5～8次調査発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第128集
- 仙台市教育委員会 1992 「富沢遺跡－第30次調査報告書II(旧石器時代編)－」仙台市文化財調査報告書第160集
- 仙台市教育委員会 1989 「富沢・泉崎浦・山口遺跡(6)－富沢遺跡第57・58・63・66・68次調査における旧石器時代の調査－富沢遺跡第69次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第172集
- 仙台市教育委員会 1994 「富沢・泉崎浦・山口遺跡(7)－富沢遺跡第87次発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第184集
- 仙台市教育委員会 1998 「原遺跡 第1・2次調査」仙台市文化財調査報告書第229集
- 仙台市教育委員会 2002 「原遺跡－第4次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第257集
- 仙台市教育委員会 1984 「山口遺跡II」仙台市文化財調査報告書第61集
- 仙台市教育委員会 1991 「山口遺跡－第9次・10次発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第151集
- 仙台市教育委員会 1981 「山田上ノ台遺跡発掘調査概報」仙台市文化財調査報告書第30集
- 仙台市教育委員会 1985 「山田上ノ台遺跡－昭和59年度発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第77集
- 仙台市教育委員会 1987 「山田上ノ台遺跡－昭和55年度発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第100集
- 仙台市教育委員会 2008 「長町駅東遺跡第1・2次調査－仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II－」仙台市文化財調査報告書第324集

- 仙台市教育委員会 2010 「沼向遺跡第4～34次調査－宮城県仙台港後背後地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－」仙台市文化財調査報告書第360集
- 仙台市教育委員会 2010 「西台畠遺跡第1・2次調査 仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書V」仙台市文化財調査報告書第359集
- 仙台市教育委員会 2004 「元袋遺跡－都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡－発掘調査報告書II」仙台市文化財調査報告書第272集
- 仙台市教育委員会 1983 「茂庭」仙台市文化財調査報告書第45集
- 仙台市教育委員会 1998 「柳生台畠遺跡」仙台市文化財調査報告書第230集
- 仙台市教育委員会 1986 「柳生 土地区画整理事業に伴う柳生地区的遺跡分布調査と、松木遺跡の発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第95集
- 仙台市教育委員会 1981 「六反田遺跡発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第34集
- 仙台市教育委員会 1984 「六反田遺跡II」仙台市文化財調査報告書第72集
- 仙台市教育委員会 1987 「六反田遺跡発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第102集
- 仙台市史編さん委員会編 1995 「仙台市史 特別編2 考古資料」仙台市
- 仙台市史編さん委員会編 1999 「仙台市史 通史編1 原始」仙台市
- 仙台市史編さん委員会編 2000 「仙台市史 通史編2 古代中世」仙台市
- 浅羽町教育委員会 1999 「五ヶ山B2号墳」
- 田辺 昭三 1966 「陶邑古窯址群」I 平安考古学クラブ
- 田辺 昭三 1981 「須恵器大成」角川書店
- 東海土器研究会 2001 「須恵器生産の出現から消滅」
- 辻 秀人 2007 「古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究」科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書東北学院大学文学部
- 中村 浩 2001 「出土須恵器の型式編年」芙蓉書房出版
- 名取市教育委員会 1990 「川上遺跡」名取市文化財調査報告書第25集
- 名取市教育委員会 1988 「大門山遺跡発掘調査報告書」名取市文化財調査報告書第22集
- 橋本 達也 1999 「盾の系譜」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室
- 橋本 達也 2001 「弥生・古墳時代の盾の系譜」『季刊考古学』第76号
- 兵庫県教育委員会 2003 「茶すり山古墳調査概報」学生社
- 水野 敏典 2003 「鉄漿にみる古墳時代後期の諸段階」『第8回東北・関東前方後円墳研究大会』
- 宮城県教育委員会 1990 「大年寺山横穴墓群」宮城県文化財調査報告書第136集
- 宮城県教育委員会 1981 「清水遺跡 東北新幹線関連遺跡調査報告書V」宮城県文化財調査報告書第77集
- 宮崎町教育委員会 1996 「米泉館跡」宮崎町文化財調査報告書第5集

報告書抄録

ふりがな	しものうちいせき・かすがしゃこふん・おおのだかんがいせきほか							
書名	下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか							
副書名	仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第390集							
編著者名	結城慎一・主濱光朗・小山裕之・太田雅晃・麻生順司・北平朗久・齊藤武士・吉川純子・株式会社環境研究所							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 Tel022-214-8894							
発行年月日	2011年(平成23年)12月16日							
所取遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
袋前遺跡	宮城県仙台市太白区 大野田字袋前、竹松、 六反田	04100	01439	38°12'48" / / 38°12'52"	140°52'26" / / 140°52'49"	1998.04.09 / / 2004.10.28	約1.150m ²	区画整理事業 市道建設
伊古田B遺跡	宮城県仙台市太白区 大野田字イコタ	04100	01191B	38°12'34" / / 38°12'36"	140°52'31" / / 140°52'34"	1998.04.09 / / 2004.01.17	約1.581m ²	区画整理事業 市道建設
下ノ内遺跡	宮城県仙台市太白区 富沢四丁目、大野田字 五反田	04100	01425	38°12'41" / / 38°12'47"	140°52'20" / / 140°52'26"	1999.04.19 / / 2003.11.26	約4.230m ²	区画整理事業 市道建設
大野田古墳群	宮城県仙台市太白区 大野田字宮脇、 竹松、千刈田	04100	01361	38°12'37" / / 38°12'46"	140°52'41" / / 140°52'44"	2000.05.01 / / 2004.10.20	約5.448m ²	区画整理事業 市道建設
王ノ塚古墳	宮城県仙台市太白区 大野田字王ノ塚	04100	01321	38°12'42"	140°52'21"	2003.06.19 / / 2003.08.06	約485m ²	区画整理事業 市道建設
春日社古墳	宮城県仙台市太白区 大野田字宮	04100	01320	38°12'41"	140°52'40"	2007.05.10 / / 2008.03.11	約1.735m ²	区画整理事業 市道建設
大野田官衙遺跡	宮城県仙台市太白区 大野田字宮脇、 竹松、千刈田、袋前、 六反田	04100	01566	38°12'52" / / 38°12'38"	140°52'26" / / 140°52'37"	2001.10.12 / / 2009.07.21	約368m ²	区画整理事業 市道建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
袋前遺跡	集落・ 畑跡	古墳～古代・ 近世	土坑 ビット列・ビット 溝跡 掘立柱建物跡	溝跡 堅穴住居 小溝状遺構群	土師器・須恵器・石器	袋前2A・2B・3区では 大野田官衙関係の遺構 SB31・60・121掘立柱 建物跡を検出。		
伊古田B遺跡	畑跡・ 水田	古墳～古代・ 近世	水田跡 溝跡 川跡	土坑 性格不明遺構 ビット列・ビット 河 小溝状遺構群	土師器・須恵器・ 縄文土器	1A区Ⅲ層では915年 降灰の十和田a(To-a) 火山灰のまとった広 がりを検出。		

下ノ内遺跡	集落跡	縄文・古墳～古代・近世	堅穴住居跡 挖立柱建物跡 井戸跡 土坑 性格不明遺構 石組み炉 溝跡 河川跡 ピット列・ピット	縄文土器・石器・土製品 ・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・金属製品 ・木製品	1B区と2C区のXI～XII層より縄文時代中期末の堅穴住居跡・掘立柱建物跡を検出。
大野田古墳群	集落跡 ・ 古墳群 ・ 墓跡	古墳・古代・近世	古墳 木棺墓 堅穴住居跡 掘立柱建物跡 横列 土坑 性格不明遺構 溝跡 河川跡 ピット列 小溝状遺構群 ピット	土師器・須恵器・埴輪・瓦・石器	7区より28号墳周溝、 8A区より29号墳周溝が検出された。8B区のSD-421溝跡は官衙関連遺構。9A区では木棺墓2基や官衙関連遺構SB-464掘立柱建物跡が検出された他、土坑や調査区から鉄滓が多い出土。
王ノ塙古墳	古墳	古墳時代	古墳 土坑 小溝状遺構群 ピット	須恵器・埴輪	王ノ塙古墳周溝の検出。
春日社古墳	古墳	古墳時代	古墳	革盾・鉄製品・埴輪	東北初の革盾を出土した古墳。
大野田官衙遺跡	官衙跡	古代	掘立柱建物跡 区画溝（東・西南・北溝・中央区画溝）	土師器・須恵器・瓦	各遺跡より官衙関連の遺構を抜粋。掘立柱建物跡6棟、区画溝を検出。
袋前遺跡					
古墳時代後期では、堅穴住居跡1軒が検出された。奈良～平安時代の遺構は土坑や溝跡、性格不明遺構、小溝状遺構群などが大半を占めているが、2A・2B・3区では大野田官衙遺跡関係の遺構SB31・60・121が検出されている。また、平安時代と考えられる小溝状遺構群は2A区を除く調査区から検出されており、広範囲に烟作が行われていたものと思われる。					
伊古田B遺跡					
古墳時代後期～平安時代までの多くの遺構種が検出されているが、堅穴住居跡は検出されていない。1A区Ⅲ層では915年降灰の十和田（To-a）火山灰のまつた広がりが検出された。また、平安時代と考えられる小溝状遺構群は2C区を除く調査区から検出されており、広範囲に烟作が行われていたものと思われる。					
下ノ内遺跡					
1B区と2C区のXI～XII層より縄文時代中期末葉の堅穴住居跡・掘立柱建物跡・多数の土坑が検出された。各調査区からは堅穴住居跡を含む、古墳時代前中期～9世紀末までの遺構群が検出された。V層から検出された小溝状遺構群は4・5区以外を除く調査区から検出され、広範囲に烟作が行われていたものと思われる。					
要 約					
大野田古墳群					
7A区から28号墳周溝、8A区から29号墳周溝が検出された。9A区からは木棺墓2基の他、官衙関連の遺構としてSB-464掘立柱建物跡が検出された。また、多量の鉄滓が調査区内から出土しており、周間に鍛冶関連の遺構の存在が予想される。					
王ノ塙古墳					
確認調査であるが、王ノ塙古墳周溝の規模（外縁径26.8～28.5m）を確認することができた。					
春日社古墳					
古墳主部・埴丘・周溝と出土遺物を報告。東北初の革盾が出土した。古墳の年代は出土遺物から、5世紀後半～6世紀初頭と考えられる。					
大野田官衙遺跡					
複数の遺跡で検出されていた官衙跡の遺構をまとめて報告。掘立柱建物跡6棟、区画溝（北溝、西溝、南溝、東溝）を報告。全体的に出土遺物量は少ないが、SB-464掘立柱建物跡とSB-64掘立柱建物跡の柱穴抜き取り穴より出土した土師器壇・須恵器壺を判断材料とするならば、大野田官衙は8世紀第Ⅱ四半期には廃絶していたものと考えられる。その際、大野田官衙の機能していた時期は郡山Ⅱ期官衙と併行する可能性が高いが、さらなる資料の増加が必要となろう。					

仙台市文化財調査報告書第390集

下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか

仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡
発掘調査報告書 II

2011年12月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区二日町1番1号
022(214)8894

印刷 八幡印刷株式会社
福島県いわき市平字田町82-13番地
tel 0246-23-1471
